

川 辺 町

**第5次総合計画後期基本計画策定のための
住民意識調査報告書**

平成30年12月

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査方法と回収結果	1
3. 集計方法及び結果の表示方法	1
第2章 回答者の属性	3
1. 性別	3
2. 年齢	3
3. 居住地区	5
4. 職業	5
5. 居住歴	7
6. 世帯構成	9
第3章 住み心地と定住意向	11
1. 住み心地	11
2. 定住意向	13
3. 移り住みたい理由	15
4. 定住対策	16
第4章 満足度と重要度について	18
1. 満足度と重要度	18
2. 重点施策	25
3. 地域の状況と自身の行動について	26
第5章 地域づくりへの参加について	29
1. 隣近所とのつきあい程度	29
2. 地域活動への参加程度	31
3. 地域活動参加の有無	33
4. 強化すべき地域の活動	35
5. まちづくりを進める方法	37
6. 目指すべきまちづくりのイメージ	39
第6章 自由記入意見	41

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

第5次総合計画後期基本計画の策定に際して、18歳以上の住民を対象として、川辺町の生活環境や施策の評価、地域における生活意識、川辺町の将来方向についての意見を得ます。

これにより、後期基本計画で目指すまちづくりの方向性や、重点とすべき施策の方向や前期の期間中に策定した総合戦略に示した取組みなどを検討するための基礎資料とします。

2. 調査方法と回収結果

(1) 調査対象

18歳以上の住民から1,000人を無作為抽出しました。

(2) 調査方法

郵送配布・郵送回収方式で実施しました。

(3) 調査項目

- ①回答者のプロフィール 4問
- ②住み心地と居住意向について 6問
- ③満足度と重要度、地域の状況について 3問
- ④地域づくりへの参加について 4問
- ⑤住民参加と将来のまちづくりについて 2問
- ⑥意見の自由筆記

(4) 調査期間

平成30年8月1日～8月31日

(5) 回収結果

有効配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
1,000人	530	529	52.9%

3. 集計方法及び結果の表示方法

(1) 集計方法

男女別と年齢別、北部・西部・東部の3地区にまとめた地区別集計を基本として分析しています。

(2) 留意点

- ①図中の構成比(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は

必ずしも 100.0%にはなりません。

- ②複数回答の場合の構成比（%）は回答者数を母数としており、合計は 100%を超えます。
- ③選択肢についての文中の記述は調査票の記述をそのまま用いていますが、図表中や一部の文章については略している場合があります。

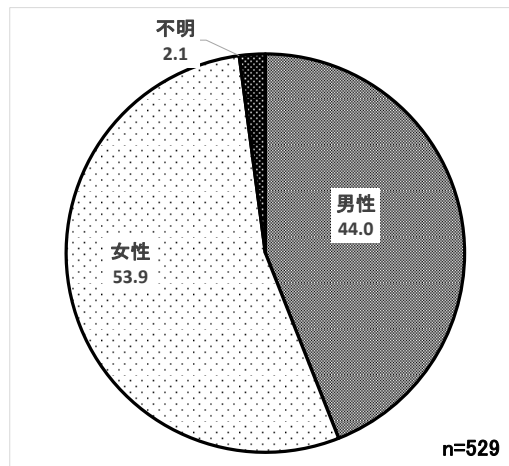
第2章 回答者の属性

1. 性別

問1 あなたの性別は(○は1つ)

○「男性」が44.0%、「女性」が53.9%で、女性が約10ポイント多くなっています。

図表2-1 性別



2. 年齢

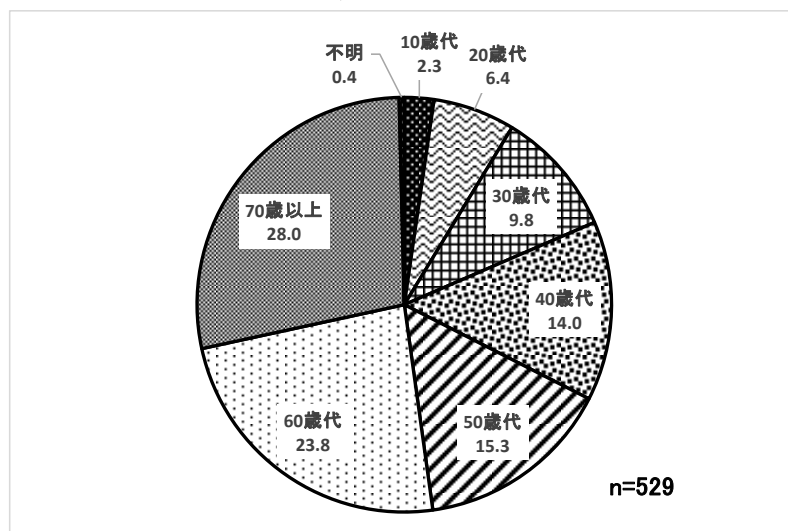
問2 あなたの年齢は(○は1つ)

(1) 全体

○「70歳以上」が28.0%、「60歳代」が23.8%、「50歳代」が15.3%で、合わせて3分の2を超えており、中高年の回答が多くなっています。

○なお、前回の平成24年度の年齢層は『50歳代以上』が58%で、特に今回は「70歳以上」が前回より20%以上増えています。

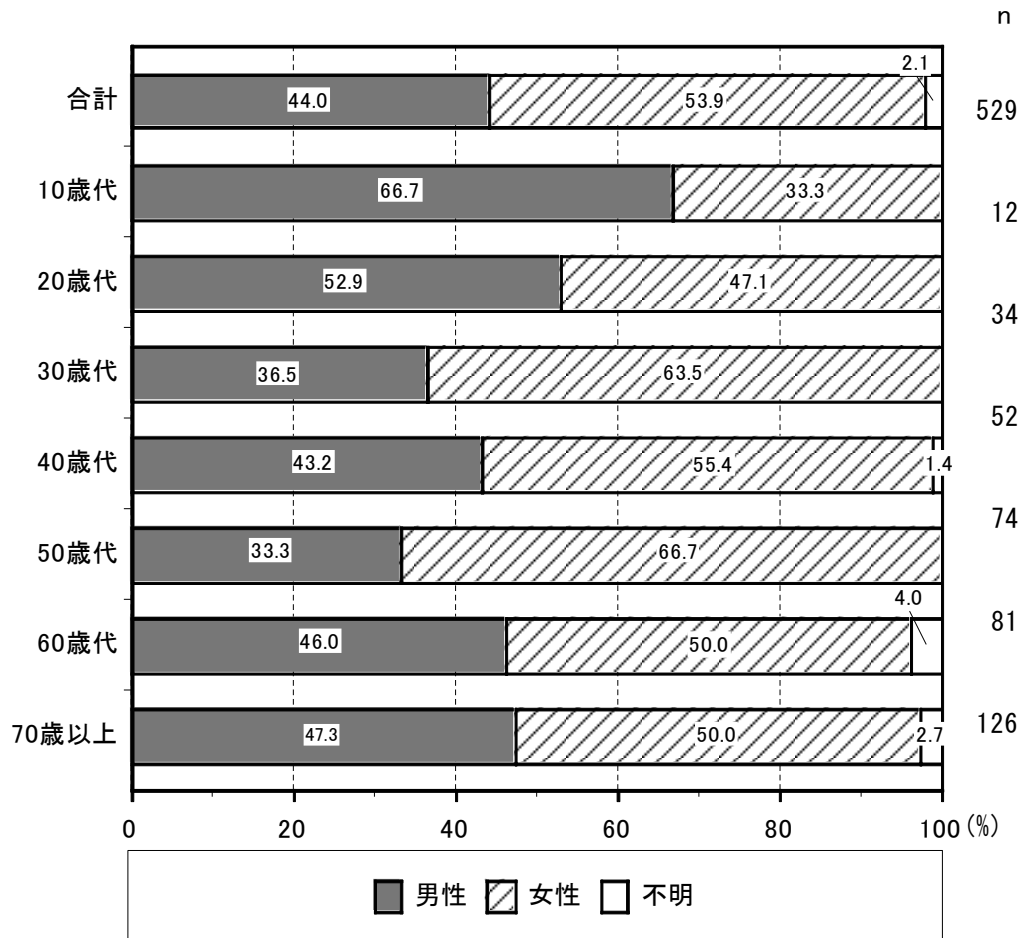
図表2-2 年齢



(2) 年齢別の性別

○多くの年齢層で「女性」の割合が「男性」よりも高くなっています。

図表2-3 性別(年齢)



3. 居住地区

問3 居住地区(○は1つ)

- 「西部」が 56.0%と半数を超え、「東部」が 27.4%、「北部」が 15.9%となっています。

図表2-4 地区別

下段:%	合計					
回答者数	525					
%	100.0					
北 部		上川辺区	下麻生区			
	84	54	30			
	15.9	10.2	5.7			
西 部		石神区	中川辺区	西栃井区	下川辺区	鹿塩区
	296	53	122	67	40	14
	56.0	10.0	23.1	12.7	7.6	2.6
東 部		下飯田区	福島区	比久見区	下吉田区	
	145	9	21	96	19	
	27.4	1.7	4.0	18.1	3.6	

注) 回答者全体に対する割合を示す。上記に示していないが、地区不明は4票

4. 職業

問4 職業(○は1つ)

(1) 全体

- 「会社員・店員」が 25.9%と多く、「公務員・団体職員」、「会社・団体の役員」、「自営業・自由業」、「農林業」を合わせると 40%強を占めます。
- 「無職」が 28.0%と最も多く、「アルバイト、フリーター」と「家事従事」、「学生」、「無職」を合わせると、60%弱となっています。

(2) 性別・年齢別・地区別

①性別

- 男性で「会社員・店員等」(33.9%)が、「女性」より約 14 ポイント高くなっています。
- 「家事従事」を回答したのは女性のみで(27.7%)、「アルバイト、フリーター」(16.1%)は男性より約 10 ポイント高くなっています。

②年齢別

- 20 歳代から 50 歳代は「会社員・店員等」の割合が高く、20 歳代では半数に達しています。

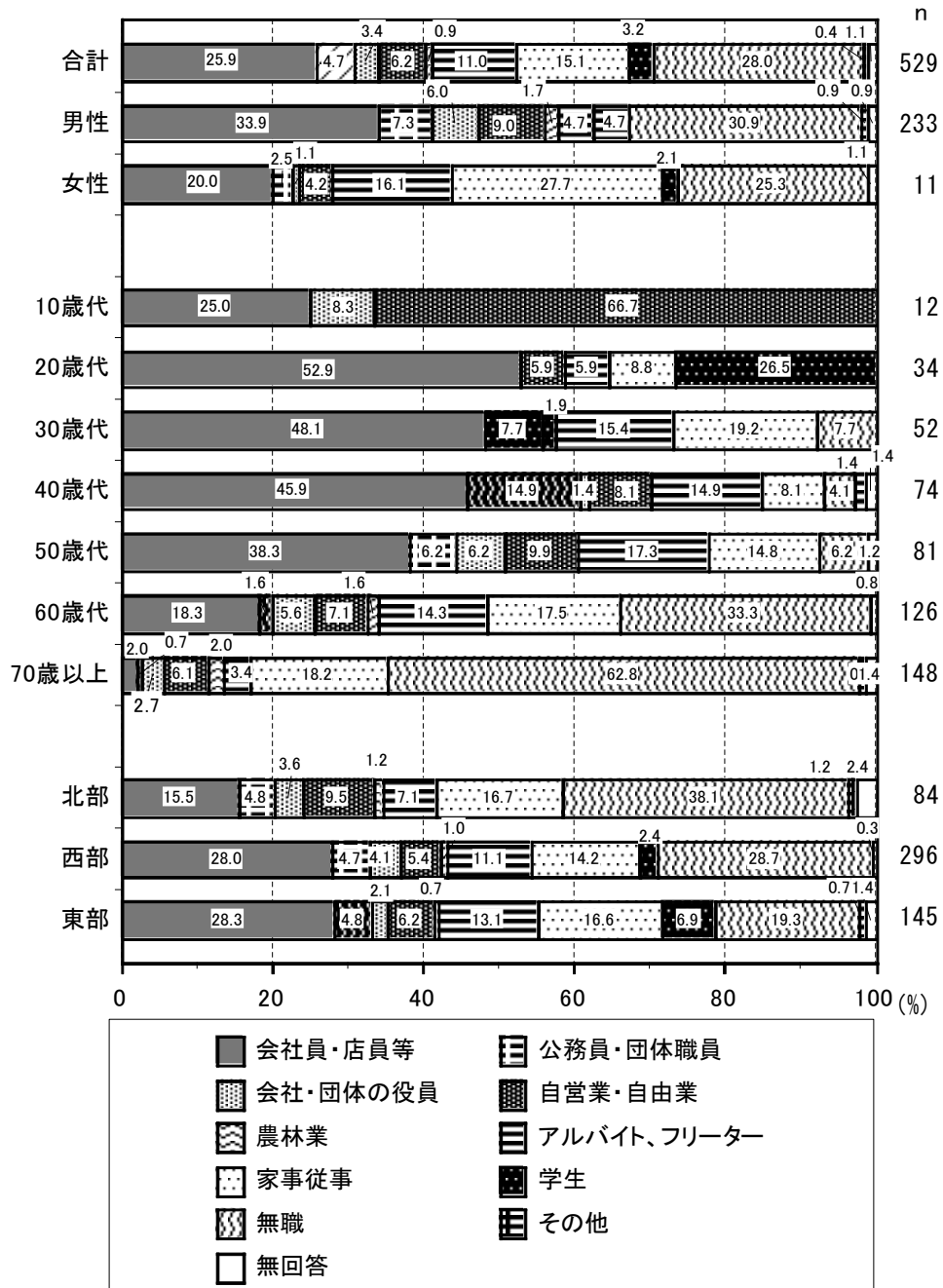
○30歳代と60歳以上で「家事従事」の割合が17%以上、50歳代で「自営業・自由業」(9.9%)が、他の年齢層よりも高くなっています。

③地区別

○北部で「自営業・自由業」(9.5%)と「無職」(38.1%)が、他の地区よりも高くなっています。

○西部と東部では「会社員・店員等」(28%以上)が、北部よりも高くなっています。

図表2-5 職業(性別・年齢別・地区別)



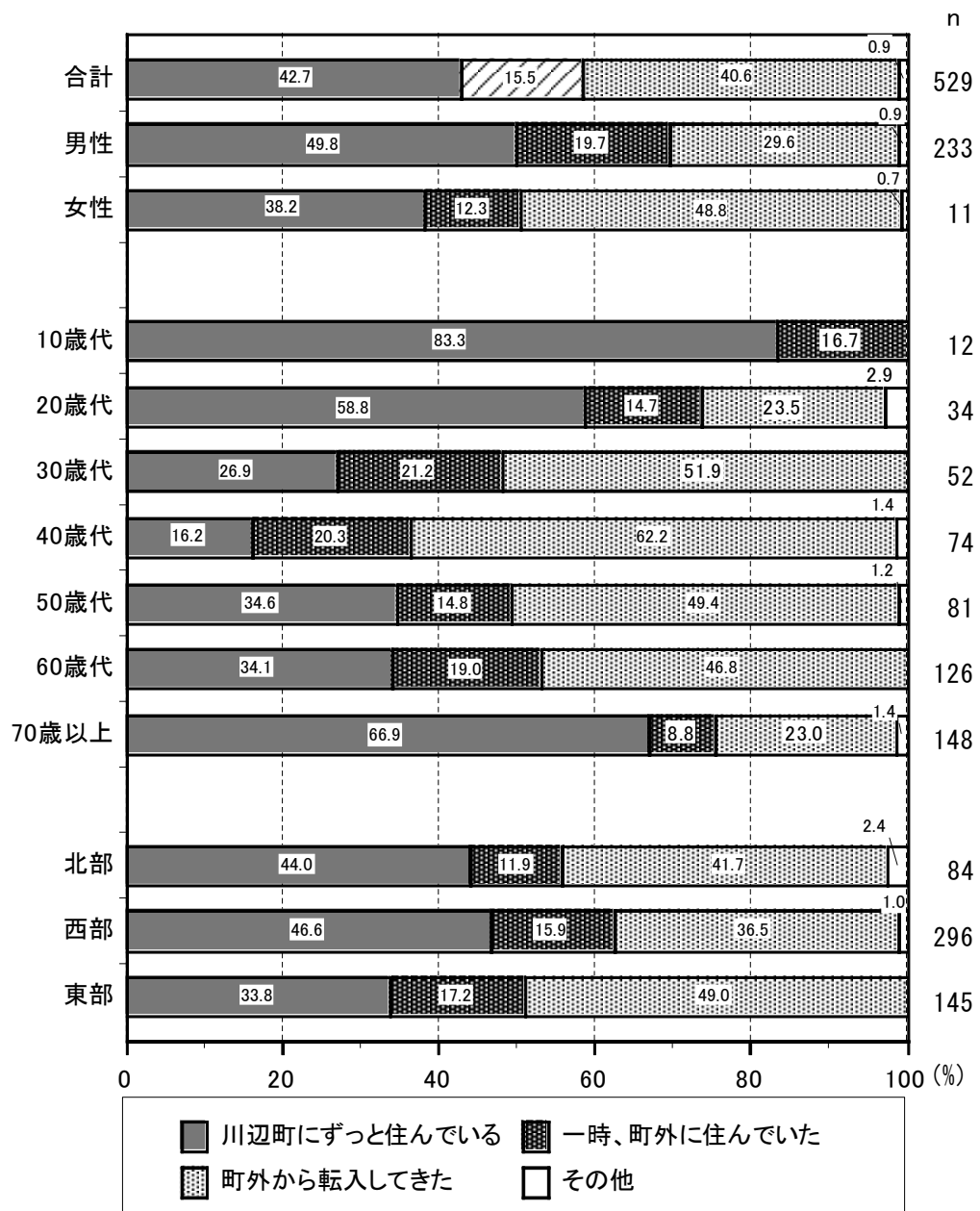
5. 居住歴

問5 川辺町にずっと住んでいるか、転入したか(○は1つ)

(1) 全体

○「川辺町にずっと住んでいる」(42.7%)と「町外から転入してきた」(40.6%)がほぼ拮抗しており、「一時、町外に住んでいた」は15.5%です。

図表2-6 居住歴(性別・年齢別・地区別)



(2) 性別・年齢別・地区別

①性別

○男性で「川辺町にずっと住んでいる」（49.8%）と「一時町外に住んでいた」（19.7%）が女性よりも高く、女性で「町外から転入してきた」（48.8%）が男性よりも高くなっています。

②年齢別

○10歳代、20歳代、70歳以上だと60歳代では「川辺町にずっと住んでいる」、30歳代から60歳代で「町外から転入してきた」が他の年齢層よりも高くなっています。

○また、30歳代と40歳代では「一時、町外に住んでいた」（約20%）強が、他の年齢層よりも高くなっています。

③地区別

○西部で「川辺町にずっと住んでいる」（46.6%）、東部で「町外から転入してきた」（49.0%）が、他地区よりも高くなっています。

6. 世帯構成

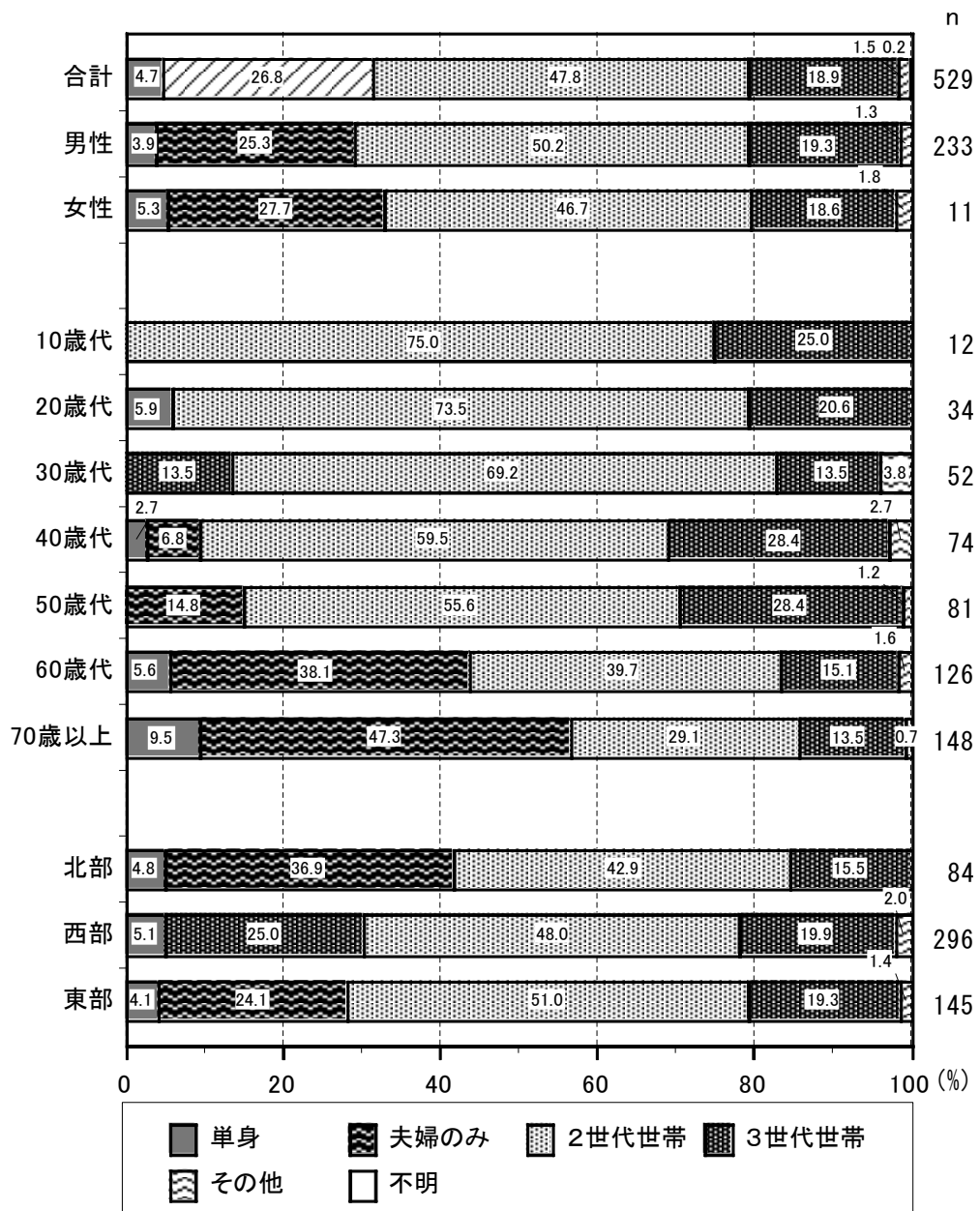
問6 世帯構成(○は1つ)

(1) 全体

○「2世代世帯(親と子)」が47.8%を占めています。

○次いで、「夫婦のみ」が26.8%、「3世代世帯」が18.9%です。

図表2-7 世帯構成(性別・年齢別・地区別)



(2) 性別・年齢別・地区別

①性別

○男性で「2世代世帯（親と子）」（50.2%）が、女性よりもやや高くなっています。

②年齢別

○10歳代から50歳代で「2世代世帯（親と子）」（55%以上）、40歳代と50歳代で「3世代世帯」（28%）、60歳代以上で「夫婦のみ」（38%以上）で、他の年齢層よりも高くなっています。

○70歳代以上で「夫婦のみ」が47.3%、「単身」が9.5%となっており、生活支援が課題となることや、将来の空き家問題の発生が懸念されます。

③地区別

○北部で「夫婦のみ」（36.9%）、東部で「2世代世帯（親と子）」（51.0%）が、他地区よりもやや高くなっています。

第3章 住み心地と定住意向

1. 住み心地

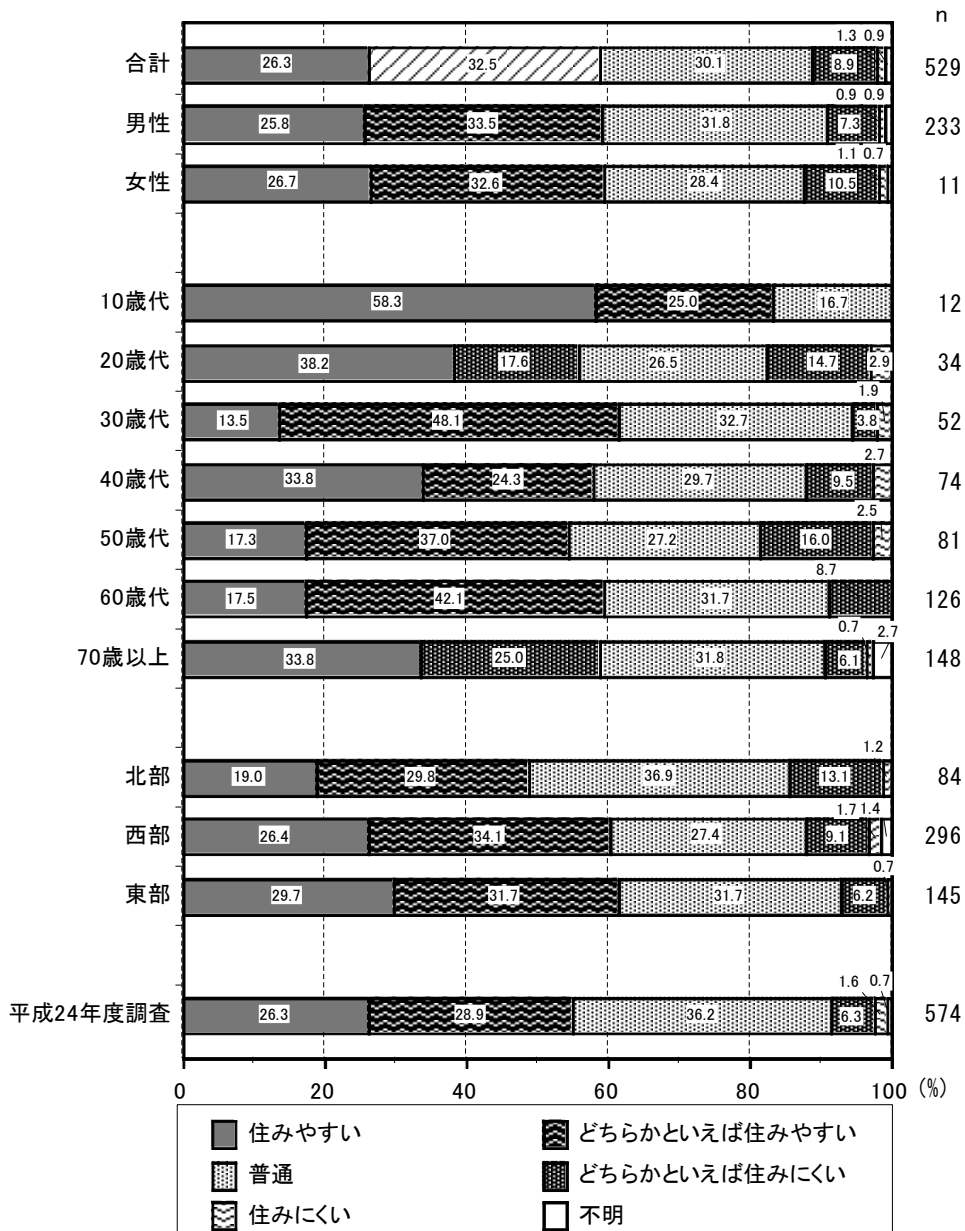
問7 住みやすいまちだと思うか(○は1つ)

(1) 全体

○「住みやすい」が26.3%、「どちらかといえば住みやすい」が32.5%で、『住みやすい』は合わせて約59%になっています。

○「どちらかといえば住みにくい」は8.9%、「住みにくい」が1.3%で、合わせて、約10%です。

図表3-1 住み心地(性別・年齢別・地区別・前回)



(2) 性別・年齢別・地区別

①性別

○女性で『住みにくい』（約12%）が、男性よりもやや高くなっています。

②年齢別

○「10歳代」を除くと『住みやすい』が特に高い年齢層はなく、20歳代と50歳代で『住みにくい』（約18%）が他の年齢層よりも高くなっています。

③地区別

○北部で『住みやすい』（49%）が特に低く、『住みにくい』（14.3%）が他地区よりも高くなっています。

(3) 平成24年度調査結果との比較

○平成24年度に実施した結果と比較すると、「普通」という評価が低くなり、『住みやすい』、『住みにくい』ともに、今回やや高くなっています。

2. 定住意向

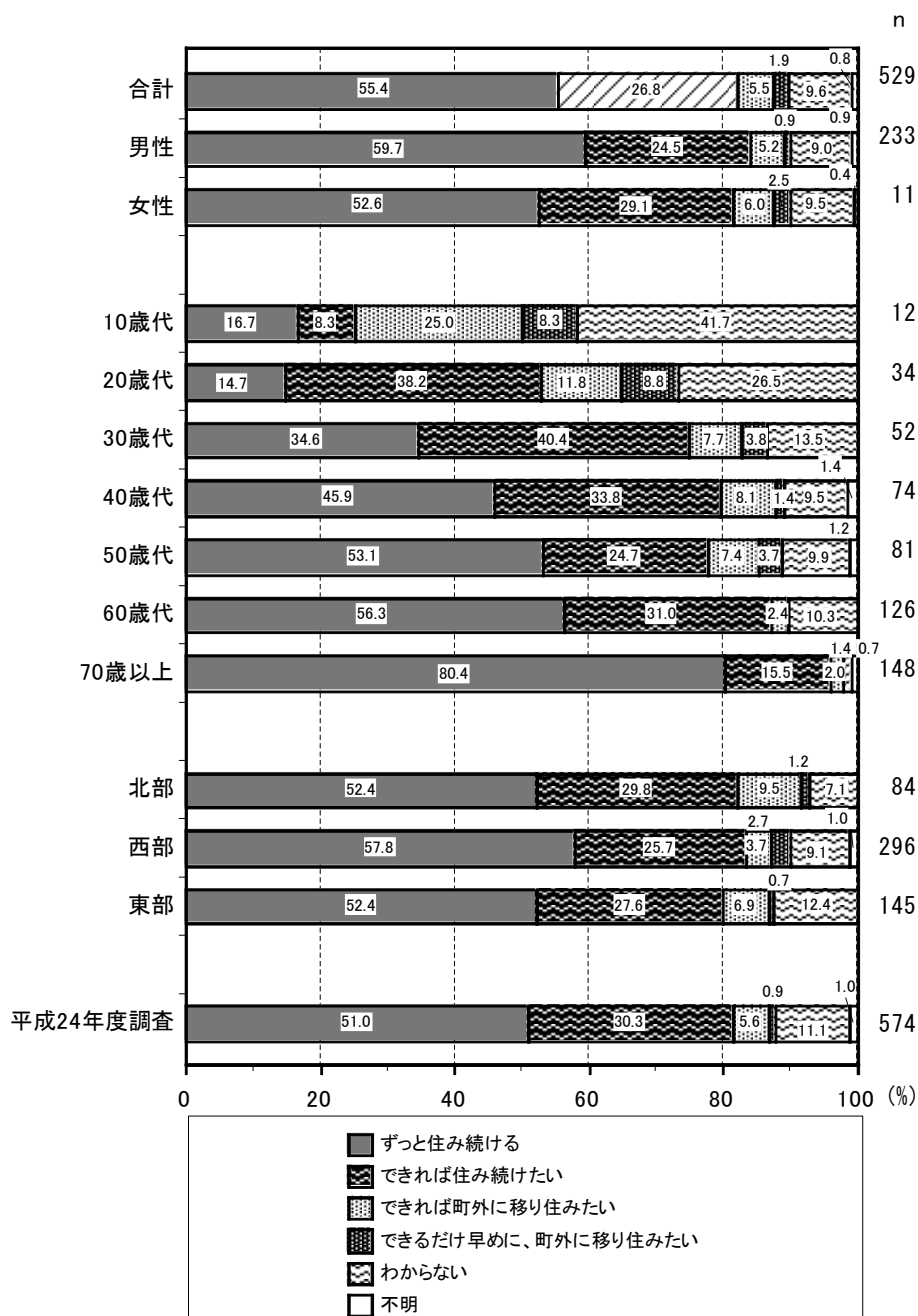
問8 これからも川辺町に住み続ける予定か(○は1つ)

(1) 全体

○「ずっと住み続ける」(55.4%)が最も多く、「できれば住み続けたい」(26.8%)を合わせると『住み続けたい』が82%に達します。

○「できれば町外に移り住みたい」、「できれば早めに、町外に移り住みたい」を合わせると『町外に移り住みたい』が約7%見られます。

図表3-2 これからも川辺町に住み続ける予定か(性別・年齢別・地区別・前回)



(2) 性別・年齢別・地区別

①性別

○男性では『住み続けたい』（84%）が、女性より若干高くなっています。

②年齢別

○60歳代以上では『住み続けたい』が85%以上ですが、20歳代以下では『町外へ移り住みたい』が20%を超え、30歳代と50歳代でも10%を超えてやや高くなっています。

③地区別

○北部で『町外へ移り住みたい』（11%）で、他地区よりもやや高くなっています。

(3) 平成24年度調査結果との比較

○平成24年度に実施した結果と比較すると、傾向はほぼ変わっていません。

3. 移り住みたい理由

問9 「できれば町外に移り住みたい」、「できるだけ早めに、町外に移り住みたい」理由
(自由筆記)

○生活環境や生活の利便性についての理由が多く、交通や買い物、医療などの便が悪いことや、高齢になり車が運転できなくなった時に困ること等が挙げられています。

図表3-3 移り住みたい理由(主な意見)

分類	主な意見
個人的な理由	<ul style="list-style-type: none"> ○仕事の関係 ○県外に就職したい。 ○就職と同時に町外に住みたいと考えています。 ○実家の近くへ引っ越す予定 ○親離れするため。自立するため。
生活環境・生活の利便性	<ul style="list-style-type: none"> ○通院など交通の便 ○利便性の良い場所に住みたい。 ○交通の便など移動手段が少ない。学校やお店などが少ない。 ○歩いていける場所がない。車を運転できるうちはいいですが、年をとり出来なくなった時に不便 ○年をとってから病院が近くにならないから、車を運転しないととても住みづらくなりそうだから。○美濃加茂市の方が店は多く、通勤(名古屋)に太田駅が便利 ○駅が遠い。店が少ない。電車が少ない。中学校にサッカー部がない。 ○水道代が高すぎるので、他の土地に住むことも考えた。
地域の間人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ○自治会の付き合い ○人が悪い。 ○違う区の間人間に対し、同じ町民であっても対応が冷たい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○偏った町づくり。(ボートばかりに力を入れすぎている) ○魅力のない町だから

4. 定住対策

問 10 川辺町に住み続ける人や、移り住みたい人を増やすためにはどのような対策が必要か(○は1つ)

(1) 全体

- 「日常の買い物に困らない環境の支援」が42.9%で最も高く、次いで「子育ての支援」、「周辺のまちへの交通の便の充実」を3分の1以上が挙げています。
- 「共働き家庭と子どもの支援」、「健康づくりや医療環境の充実」、「災害に強いまちづくり」が20%以上見られます。

(2) 性別・年齢別・地区別

①性別

- 男性では、「新たな事業活動や創業の支援」(24.9%)、「観光やイベントによる集客」(12.4%)が女性よりも高くなっています。
- 女性では、「日常の買い物に困らない環境の支援」(48.1%)が特に高く、「共働き家庭と子どもの支援」(28.4%)が男性よりも高くなっています。

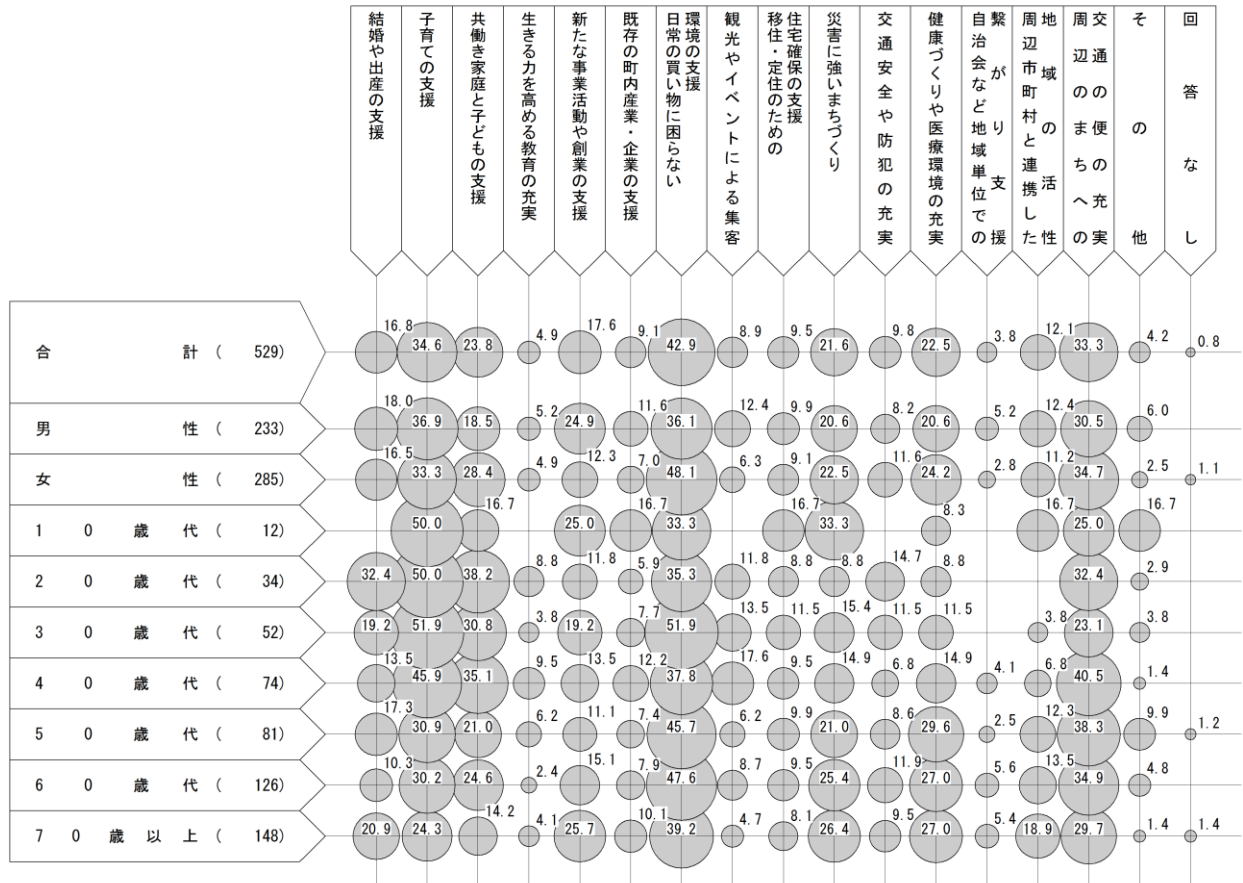
②年齢別

- 子育て期の30歳代と40歳代で「子育ての支援」、20歳代から40歳代で「共働き家庭と子どもの支援」、20歳代で「結婚や出産の支援」が、他の年齢層よりも高くなっています。また、30歳代と60歳代で「日常の買い物に困らない環境の支援」が47%以上で高くなっています。
- 50歳以上では「健康づくりや医療環境の充実」、40歳代と50歳代では「周辺のまちへの交通の便の充実」が、他の年齢層よりも高くなっています。年齢層によってニーズに特色があり、定住対策は多様な施策が必要であると改めてうかがえます。

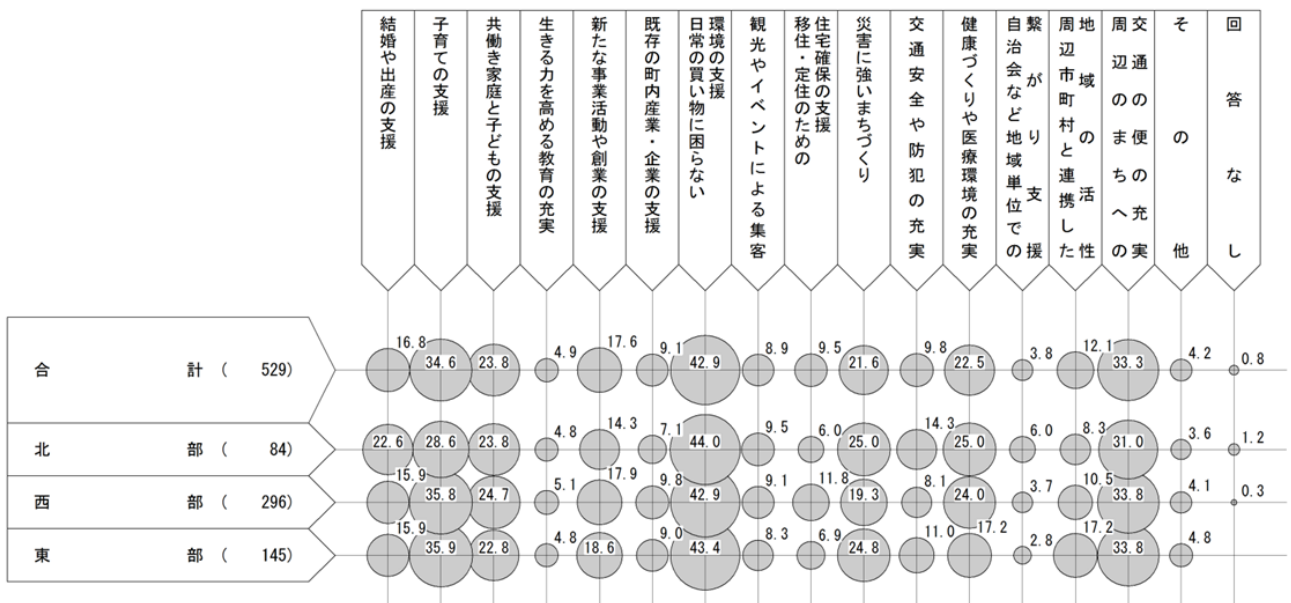
③地区別

- 北部と東部で「災害に強いまちづくり」、北部で「結婚や出産の支援」、「交通安全や防犯の充実」など、東部で「周辺市町村と連携した地域の活性」などが他地区よりも高くなっています。

図表3-4 定住意向(性別・年齢別)



図表3-5 定住意向(地区別)



第4章 満足度と重要度について

1. 満足度と重要度

問11 行政が行うそれぞれの事業についての満足度と重要度(項目別に○は1つ)

(注) 満足度の評点は「満足」を2点、「やや満足」を1点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点として、それぞれ回答数に欠けて合計して、これらの回答総数で割った点数を示しています。重要度についても、同様に回答にウエイトを付けて算出しています。

(1) 全体

○満足度が高い項目は、評点0.5以上で特に高いのは、衛生対策、防災や防犯、教育や子育てなどです。(平均:0.19点)

- ・「(16)下水道や生活排水処理などの衛生対策」(0.80点)
- ・「(8)健康診断・相談などの保健予防体制」(0.70点)
- ・「(19)消防・防災体制の整備」(0.64点)
- ・「(20)交通安全や防犯対策の推進」(0.57点)
- ・「(18)ごみ処理やリサイクル事業」(0.55点)
- ・「(1)小・中学校などの教育環境の充実」(0.53点)
- ・「(4)保育の環境や子育て支援の充実」(0.50点)

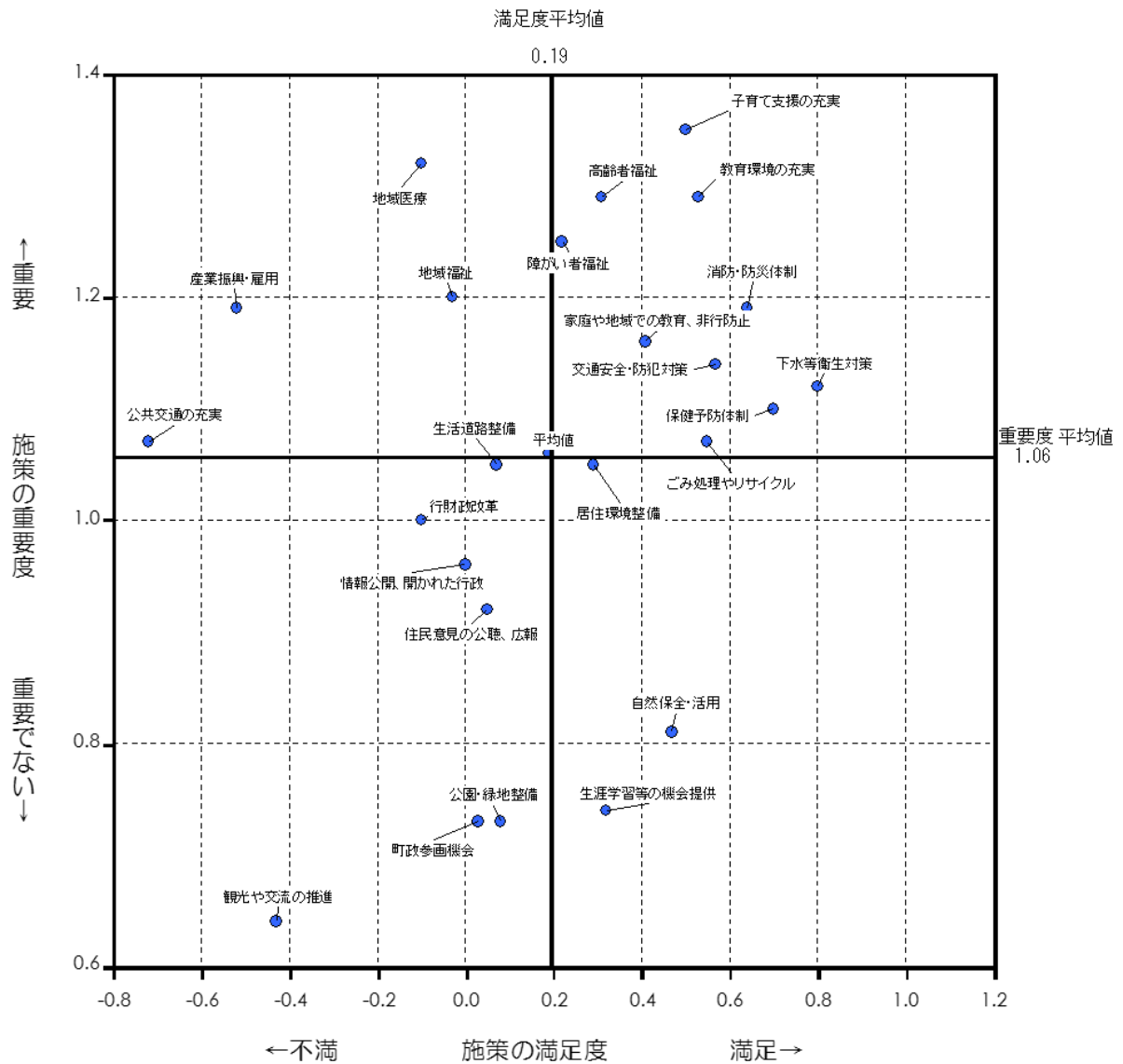
○重要度が高い項目は、評点1.10点以上付近が多くなっていますが、1.2以上の項目は、子育て、医療、教育、福祉関連の項目があります。(平均点:1.06点)

- ・「(4)保育の環境や子育て支援の充実」(1.35点)
- ・「(9)医療施設、夜間・休日診療の体制」(1.32点)
- ・「(1)小・中学校などの教育環境の充実」(1.29点)
- ・「(5)高齢者への福祉サービス」(1.29点)
- ・「(6)障がい者(児)への福祉サービス」(1.25点)
- ・「(7)地域で困った人を支え合う体制づくり」(1.20点)

○これから力を入れていくべき施策を検討するための指標となる「重要度が高く」「満足度が低い」項目（項目平均値を基準）は、次の通りです。

- ・「(14) JR高山線など公共交通の充実」
- ・「(10) 町内の産業の振興・雇用の場の確保」
- ・「(9) 医療施設、夜間・休日診療の体制」
- ・「(7) 地域で困った人を支え合う体制づくり」

図表4-1 満足度と重要度の評点分布



(2) 満足度の前回の調査結果との比較

○平成24年度調査から満足度評点が低くなった項目（表の下の方の欄）は、自然の保全、高齢者への福祉サービス、観光・交流、教育環境、消防・防災の項目です。

○重要度の評点が高くなった項目は、公共交通の充実、観光や交流の推進、自然の保全、公園・緑地、良好な居住環境などの項目です。

図表4-2 満足度評点の変化(前回との差が大きい順)

	今回満足度	前回満足度	前回との差
(9)医療施設、夜間・休日診療の体制	-0.10	-0.50	0.40
(10) 町内の産業の振興・雇用の場の確保	-0.52	-0.79	0.27
(2)家庭や地域における教育や非行防止への支援	0.41	0.15	0.26
(16)下水道や生活排水処理などの衛生対策	0.80	0.63	0.17
(18)ごみ処理やリサイクル事業	0.55	0.42	0.13
(15)公園・緑地の整備	0.08	-0.05	0.13
(23)行財政改革への取り組み	-0.10	-0.21	0.11
(12)良好な居住環境の整備	0.29	0.19	0.10
(8)健康診断・相談などの保健予防体制	0.70	0.61	0.09
(3)生涯学習、スポーツ、文化活動の機会の提供	0.32	0.24	0.08
(24)情報公開・住民に開かれた行政への取り組み	0.00	-0.08	0.08
平均値	0.19	0.13	0.06
(21)住民の町政への参画機会の充実	0.03	-0.02	0.05
(14)JR高山線など公共交通の充実	-0.72	-0.76	0.04
(13)身近な生活道路や歩道の整備	0.07	0.03	0.04
(20)交通安全や防犯対策の推進	0.57	0.53	0.04
(7)地域で困った人を支え合う体制づくり	-0.03	-0.04	0.01
(4)保育の環境や子育て支援の充実	0.50	0.50	0.00
(6)障がい者(児)への福祉サービス	0.22	0.22	0.00
(22)住民の意見の把握(広聴)や広報	0.05	0.05	0.00
(19)消防・防災体制の整備	0.64	0.65	-0.01
(1)小・中学校などの教育環境の充実	0.53	0.55	-0.02
(11)観光や交流の推進	-0.43	-0.35	-0.08
(5)高齢者への福祉サービス	0.31	0.44	-0.13
(17)ダム湖や山林など豊かな自然の保全・活用	0.47	0.74	-0.27

図表4-3 重要度評点の変化(前回との差が大きい順)

	今回重要度	前回重要度	前回との差
(14)JR高山線など公共交通の充実	1.07	0.88	0.19
(11)観光や交流の推進	0.64	0.51	0.13
(17)ダム湖や山林など豊かな自然の保全・活用	0.81	0.68	0.13
(15)公園・緑地の整備	0.73	0.61	0.12
(12)良好な居住環境の整備	1.05	0.94	0.11
(13)身近な生活道路や歩道の整備	1.05	0.96	0.09
(16)下水道や生活排水処理などの衛生対策	1.12	1.07	0.05
(4)保育の環境や子育て支援の充実	1.35	1.32	0.03
(6)障がい者(児)への福祉サービス	1.25	1.23	0.02
(18)ごみ処理やリサイクル事業	1.07	1.05	0.02
平均値	1.06	1.04	0.02
(1)小・中学校などの教育環境の充実	1.29	1.28	0.01
(7)地域で困った人を支え合う体制づくり	1.20	1.19	0.01
(21)住民の町政への参画機会の充実	0.73	0.72	0.01
(5)高齢者への福祉サービス	1.29	1.29	0.00
(22)住民の意見の把握(広聴)や広報	0.92	0.92	0.00
(8)健康診断・相談などの保健予防体制	1.10	1.11	-0.01
(19)消防・防災体制の整備	1.19	1.20	-0.01
(10) 町内の産業の振興・雇用の場の確保	1.19	1.21	-0.02
(9)医療施設、夜間・休日診療の体制	1.32	1.35	-0.03
(20)交通安全や防犯対策の推進	1.14	1.18	-0.04
(24)情報公開・住民に開かれた行政への取り組み	0.96	1.00	-0.04
(3)生涯学習、スポーツ、文化活動の機会の提供	0.74	0.80	-0.06
(23)行財政改革への取り組み	1.00	1.06	-0.06
(2)家庭や地域における教育や非行防止への支援	1.16	1.28	-0.12

(3) 満足率・重要率による年齢別の特色

※(2)までは評点で比較しましたが、ここでは満足率(「満足」+「やや満足」の%)、重要率(「非常に重要」+「重要」の%)で、年齢別に比較します。

※今後課題となる項目として、満足率では低い項目、重要率では高い項目を中心に見てみます。

①項目別満足率・重要率から見た特徴

○24項目それぞれについて合計と比較して、高い項目と低い項目を見ると、満足率では、50歳代以上において低い項目が多くなり、重要率では20歳代から40歳代を中心に高い項目が多くなっています。20歳代から40歳代は、全体的に重要率も満足率も高くなっていることが目立ちます。

○なかでは30歳代、40歳代で、「JR高山線など公共交通の充実」、「公園・緑地の整備」が、それぞれ合計よりも低く、「JR高山線など公共交通の充実」は60歳代までの年齢層でまんべんなく低くなっています。さらに、重要率でも「JR高山線など公共交通の充実」は50歳代までまんべんなく高くなっています。

②満足率が低い項目と重要率の高い項目

○満足率下位と重要率上位の項目を見ると、①から見たのとほぼ同様に、20歳代から50歳代で「JR高山線など公共交通の充実」が挙げられています。

○さらに、全ての年齢層で「医療施設、夜間・休日診療の体制」、20歳代、40歳代、70歳以上で「町内の産業振興・雇用の場の確保」、20歳代、50歳代、60歳代で「障がい者(児)への福祉サービス」が満足率下位・重要率上位となっています。

図表4-4 満足率・重要率(年齢別、%)

満足率(「満足」+「やや満足」(%))	合計	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 小・中学校などの教育環境の充実	61.3	91.6	70.6	65.4	66.3	58.0	53.2	60.8
2 家庭や地域における教育や非行防止への支援	58.2	83.3	76.5	63.4	67.6	61.7	49.2	51.3
3 生涯学習、スポーツ、文化活動の機会の提供	57.3	58.4	67.7	61.6	62.2	46.9	55.5	58.1
4 保育の環境や子育て支援の充実	62.4	83.3	70.6	63.5	77.0	56.8	58.7	56.8
5 高齢者への福祉サービス	56.5	83.3	67.6	55.8	66.2	51.8	55.6	50.7
6 障がい者(児)への福祉サービス	51.4	75.0	55.9	51.9	62.2	45.7	45.3	52.0
7 地域で困った人を支え合う体制づくり	43.5	58.4	52.9	63.4	51.3	37.1	37.3	37.8
8 健康診断・相談などの保健予防体制	72.1	75.0	79.4	78.8	74.3	66.7	70.6	70.3
9 医療施設、夜間・休日診療の体制	43.1	58.4	44.1	50.0	41.9	25.9	43.7	48.6
10 町内の産業の振興・雇用の場の確保	29.0	33.3	47.1	28.9	36.5	18.5	27.0	27.7
11 観光や交流の推進	31.2	41.6	41.2	34.6	39.2	22.2	31.0	28.4
12 良好な居住環境の整備	57.6	75.0	73.6	63.4	64.9	54.3	53.2	52.7
13 身近な生活道路や歩道の整備	52.3	66.7	79.4	61.5	55.4	49.4	49.2	44.6
14 JR高山線など公共交通の充実	25.3	16.6	20.6	23.1	23.0	22.3	24.6	31.1
15 公園・緑地の整備	52.9	58.4	70.5	48.1	50.0	53.1	50.8	54.0
16 下水道や生活排水処理などの衛生対策	77.3	83.3	91.2	84.7	77.0	77.8	73.0	74.3
17 ダム湖や山林など豊かな自然の保全・活用	64.3	75.0	79.4	80.8	78.4	65.5	53.2	56.1
18 ごみ処理やリサイクル事業	67.5	66.7	82.3	63.5	68.9	62.9	65.0	69.5
19 消防・防災体制の整備	71.1	66.6	88.2	80.8	75.7	66.7	68.2	66.2
20 交通安全や防犯対策の推進	68.4	83.4	85.3	76.9	74.4	63.0	63.5	64.8
21 住民の町政への参画機会の充実	46.7	41.7	61.7	51.9	52.7	40.8	44.5	43.9
22 住民の意見の把握(広聴)や広報	48.6	41.7	64.7	61.6	52.7	39.5	46.0	46.6
23 行財政改革への取り組み	44.0	50.0	64.7	51.9	43.3	39.5	42.1	40.5
24 情報公開・住民に開かれた行政への取り組み	47.8	41.7	64.7	63.4	50.0	43.2	46.0	41.9
重要率(「非常に重要」+「重要」(%))	合計	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 小・中学校などの教育環境の充実	86.0	83.3	91.2	96.1	93.2	87.6	83.3	79.1
2 家庭や地域における教育や非行防止への支援	83.5	83.3	94.1	88.4	89.2	84.0	83.3	76.4
3 生涯学習、スポーツ、文化活動の機会の提供	70.7	83.3	73.5	76.9	78.4	66.6	65.1	69.6
4 保育の環境や子育て支援の充実	85.6	83.3	94.1	94.2	94.6	87.6	83.4	77.0
5 高齢者への福祉サービス	85.9	91.6	94.1	90.4	94.6	85.2	83.3	79.8
6 障がい者(児)への福祉サービス	85.1	91.6	88.3	90.4	91.9	87.7	87.3	75.0
7 地域で困った人を支え合う体制づくり	83.4	83.3	88.2	86.6	87.8	84.0	81.7	79.8
8 健康診断・相談などの保健予防体制	82.1	91.6	85.3	88.4	85.1	82.7	80.2	77.7
9 医療施設、夜間・休日診療の体制	87.6	91.6	91.2	94.2	91.9	85.2	86.5	83.8
10 町内の産業の振興・雇用の場の確保	82.6	75.0	88.3	84.6	90.5	84.0	81.0	77.7
11 観光や交流の推進	65.8	66.7	73.5	67.4	79.8	59.2	61.1	64.2
12 良好な居住環境の整備	80.9	75.0	88.2	86.6	86.5	82.7	80.2	74.3
13 身近な生活道路や歩道の整備	82.0	83.3	85.3	80.8	90.6	80.3	83.4	77.1
14 JR高山線など公共交通の充実	79.2	83.4	88.3	84.7	90.5	87.6	72.2	70.2
15 公園・緑地の整備	71.8	58.3	82.3	75.0	78.4	74.1	70.6	66.2
16 下水道や生活排水処理などの衛生対策	83.9	83.3	94.1	82.7	81.1	88.9	84.1	80.4
17 ダム湖や山林など豊かな自然の保全・活用	73.9	83.3	85.3	71.1	77.0	75.4	76.2	67.6
18 ごみ処理やリサイクル事業	83.7	83.4	91.2	82.7	83.8	87.6	87.3	77.0
19 消防・防災体制の整備	85.8	91.6	85.3	84.6	86.5	90.1	88.1	81.1
20 交通安全や防犯対策の推進	84.1	91.7	79.4	84.6	90.5	88.9	86.5	76.4
21 住民の町政への参画機会の充実	71.6	83.3	82.3	67.3	77.0	66.6	77.0	64.8
22 住民の意見の把握(広聴)や広報	78.2	83.4	85.3	78.9	81.1	77.8	81.8	71.6
23 行財政改革への取り組み	80.3	83.3	85.3	80.8	81.1	81.5	81.0	77.0
24 情報公開・住民に開かれた行政への取り組み	79.8	83.4	82.4	76.9	83.8	79.0	81.8	76.4

凡例 各項目合計との差

5%以上
0~5%未満
-5~0%未満
-5%未満

図表4-5 満足率が低い項目、重要率が高い項目(10項目ずつ) 着色は低い満足率、高い重要率の両方に該当する項目

満足率(「満足」+「やや満足」(%))の低い順																
	合計		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
1	14 JR高山線など公共交通の充実	25.3	14 JR高山線など公共交通の充実	16.6	14 JR高山線など公共交通の充実	20.6	14 JR高山線など公共交通の充実	23.1	14 JR高山線など公共交通の充実	23.0	10 町内の産業の振興・雇用の場の確保	18.5	14 JR高山線など公共交通の充実	24.6	10 町内の産業の振興・雇用の場の確保	27.7
2	10 町内の産業の振興・雇用の場の確保	29.0	10 町内の産業の振興・雇用の場の確保	33.3	11 観光や交流の推進	41.2	10 町内の産業の振興・雇用の場の確保	28.9	10 町内の産業の振興・雇用の場の確保	36.5	11 観光や交流の推進	22.2	10 町内の産業の振興・雇用の場の確保	27.0	11 観光や交流の推進	28.4
3	11 観光や交流の推進	31.2	11 観光や交流の推進	41.6	9 医療施設、夜間・休日診療の体制	44.1	11 観光や交流の推進	34.6	11 観光や交流の推進	39.2	14 JR高山線など公共交通の充実	22.3	11 観光や交流の推進	31.0	14 JR高山線など公共交通の充実	31.1
4	9 医療施設、夜間・休日診療の体制	43.1	21 住民の町政への参画機会の充実	41.7	10 町内の産業の振興・雇用の場の確保	47.1	15 公園・緑地の整備	48.1	9 医療施設、夜間・休日診療の体制	41.9	9 医療施設、夜間・休日診療の体制	25.9	7 地域で困った人を支え合う体制づくり	37.3	7 地域で困った人を支え合う体制づくり	37.8
5	7 地域で困った人を支え合う体制づくり	43.5	22 住民の意見の把握(広聴)や広報	41.7	7 地域で困った人を支え合う体制づくり	52.9	9 医療施設、夜間・休日診療の体制	50.0	23 行財政改革への取り組み	43.3	7 地域で困った人を支え合う体制づくり	37.1	23 行財政改革への取り組み	42.1	23 行財政改革への取り組み	40.5
6	23 行財政改革への取り組み	44.0	24 情報公開・住民に開かれた行政への取り組み	41.7	6 障がい者(児)への福祉サービス	55.9	6 障がい者(児)への福祉サービス	51.9	15 公園・緑地の整備	50.0	22 住民の意見の把握(広聴)や広報	39.5	9 医療施設、夜間・休日診療の体制	43.7	24 情報公開・住民に開かれた行政への取り組み	41.9
7	21 住民の町政への参画機会の充実	46.7	23 行財政改革への取り組み	50.0	21 住民の町政への参画機会の充実	61.7	21 住民の町政への参画機会の充実	51.9	24 情報公開・住民に開かれた行政への取り組み	50.0	23 行財政改革への取り組み	39.5	21 住民の町政への参画機会の充実	44.5	21 住民の町政への参画機会の充実	43.9
8	24 情報公開・住民に開かれた行政への取り組み	47.8	3 生涯学習、スポーツ、文化活動の機会の提供	58.4	22 住民の意見の把握(広聴)や広報	64.7	23 行財政改革への取り組み	51.9	7 地域で困った人を支え合う体制づくり	51.3	21 住民の町政への参画機会の充実	40.8	6 障がい者(児)への福祉サービス	45.3	13 身近な生活道路や歩道の整備	44.6
9	22 住民の意見の把握(広聴)や広報	48.6	7 地域で困った人を支え合う体制づくり	58.4	23 行財政改革への取り組み	64.7	5 高齢者への福祉サービス	55.8	21 住民の町政への参画機会の充実	52.7	24 情報公開・住民に開かれた行政への取り組み	43.2	22 住民の意見の把握(広聴)や広報	46.0	22 住民の意見の把握(広聴)や広報	46.6
10	6 障がい者(児)への福祉サービス	51.4	9 医療施設、夜間・休日診療の体制	58.4	24 情報公開・住民に開かれた行政への取り組み	64.7	13 身近な生活道路や歩道の整備	61.5	22 住民の意見の把握(広聴)や広報	52.7	6 障がい者(児)への福祉サービス	45.7	24 情報公開・住民に開かれた行政への取り組み	46.0	9 医療施設、夜間・休日診療の体制	48.6

重要率(「非常に重要」+「重要」(%))の高い順																
	合計		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
1	9 医療施設、夜間・休日診療の体制	87.6	20 交通安全や防犯対策の推進	91.7	2 家庭や地域における教育や非行防止への支援	94.1	1 小・中学校などの教育環境の充実	96.1	4 保育の環境や子育て支援の充実	94.6	19 消防・防災体制の整備	90.1	19 消防・防災体制の整備	88.1	9 医療施設、夜間・休日診療の体制	83.8
2	1 小・中学校などの教育環境の充実	86.0	5 高齢者への福祉サービス	91.6	4 保育の環境や子育て支援の充実	94.1	9 医療施設、夜間・休日診療の体制	94.2	5 高齢者への福祉サービス	94.6	16 下水道や生活排水処理などの衛生対策	88.9	6 障がい者(児)への福祉サービス	87.3	19 消防・防災体制の整備	81.1
3	5 高齢者への福祉サービス	85.9	6 障がい者(児)への福祉サービス	91.6	5 高齢者への福祉サービス	94.1	4 保育の環境や子育て支援の充実	94.2	1 小・中学校などの教育環境の充実	93.2	20 交通安全や防犯対策の推進	88.9	18 ごみ処理やリサイクル事業	87.3	16 下水道や生活排水処理などの衛生対策	80.4
4	19 消防・防災体制の整備	85.8	8 健康診断・相談などの保健予防体制	91.6	16 下水道や生活排水処理などの衛生対策	94.1	5 高齢者への福祉サービス	90.4	6 障がい者(児)への福祉サービス	91.9	6 障がい者(児)への福祉サービス	87.7	9 医療施設、夜間・休日診療の体制	86.5	5 高齢者への福祉サービス	79.8
5	4 保育の環境や子育て支援の充実	85.6	9 医療施設、夜間・休日診療の体制	91.6	1 小・中学校などの教育環境の充実	91.2	6 障がい者(児)への福祉サービス	90.4	9 医療施設、夜間・休日診療の体制	91.9	18 ごみ処理やリサイクル事業	87.6	20 交通安全や防犯対策の推進	86.5	7 地域で困った人を支え合う体制づくり	79.8
6	6 障がい者(児)への福祉サービス	85.1	19 消防・防災体制の整備	91.6	9 医療施設、夜間・休日診療の体制	91.2	2 家庭や地域における教育や非行防止への支援	88.4	13 身近な生活道路や歩道の整備	90.6	1 小・中学校などの教育環境の充実	87.6	16 下水道や生活排水処理などの衛生対策	84.1	1 小・中学校などの教育環境の充実	79.1
7	20 交通安全や防犯対策の推進	84.1	14 JR高山線など公共交通の充実	83.4	18 ごみ処理やリサイクル事業	91.2	8 健康診断・相談などの保健予防体制	88.4	10 町内の産業の振興・雇用の場の確保	90.5	4 保育の環境や子育て支援の充実	87.6	4 保育の環境や子育て支援の充実	83.4	8 健康診断・相談などの保健予防体制	77.7
8	16 下水道や生活排水処理などの衛生対策	83.9	18 ごみ処理やリサイクル事業	83.4	6 障がい者(児)への福祉サービス	88.3	7 地域で困った人を支え合う体制づくり	86.6	14 JR高山線など公共交通の充実	90.5	14 JR高山線など公共交通の充実	87.6	13 身近な生活道路や歩道の整備	83.4	10 町内の産業の振興・雇用の場の確保	77.7
9	18 ごみ処理やリサイクル事業	83.7	22 住民の意見の把握(広聴)や広報	83.4	10 町内の産業の振興・雇用の場の確保	88.3	12 良好な居住環境の整備	86.6	20 交通安全や防犯対策の推進	90.5	5 高齢者への福祉サービス	85.2	1 小・中学校などの教育環境の充実	83.3	13 身近な生活道路や歩道の整備	77.1
10	2 家庭や地域における教育や非行防止への支援	83.5	24 情報公開・住民に開かれた行政への取り組み	83.4	14 JR高山線など公共交通の充実	88.3	14 JR高山線など公共交通の充実	84.7	2 家庭や地域における教育や非行防止への支援	89.2	9 医療施設、夜間・休日診療の体制	85.2	2 家庭や地域における教育や非行防止への支援	83.3	4 保育の環境や子育て支援の充実	77.0

2. 重点施策

問 12 問 11の 24 項目のうち、今後、特に力を入れて取り組むべきもの(○は5つまで)

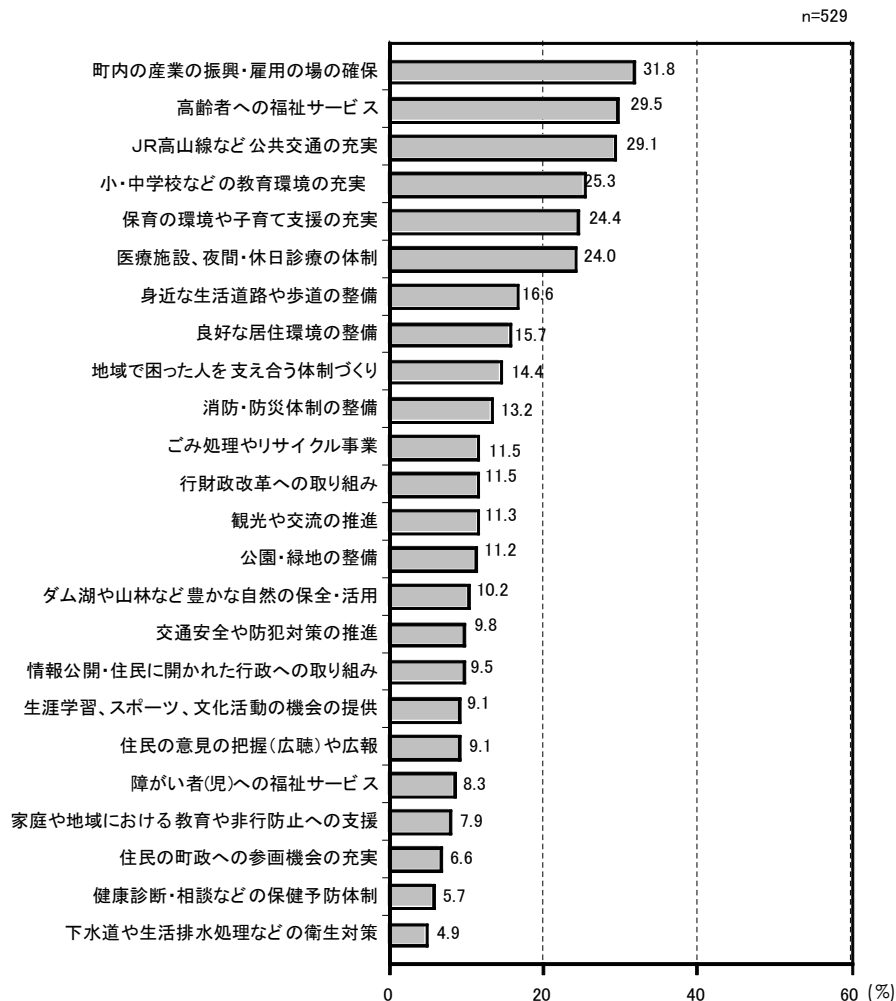
(1) 全体

○24 項目のうち、回答を 15%以上集めた項目が 8 項目あります。

○産業振興、福祉、公共交通、教育、保育、医療のような高齢者や子どもにかかわる項目が挙げられています。

- ・「町内の産業の振興・雇用の場の確保」 (31.8%)
- ・「高齢者への福祉サービス」 (29.5%)
- ・「JR高山線など公共交通の充実」 (29.1%)
- ・「小・中学校などの教育環境の充実」 (25.3%)
- ・「保育の環境や子育て支援の充実」 (24.4%)
- ・「医療施設、夜間・休日診療の体制」 (24.0%)

図表4-6 重点施策



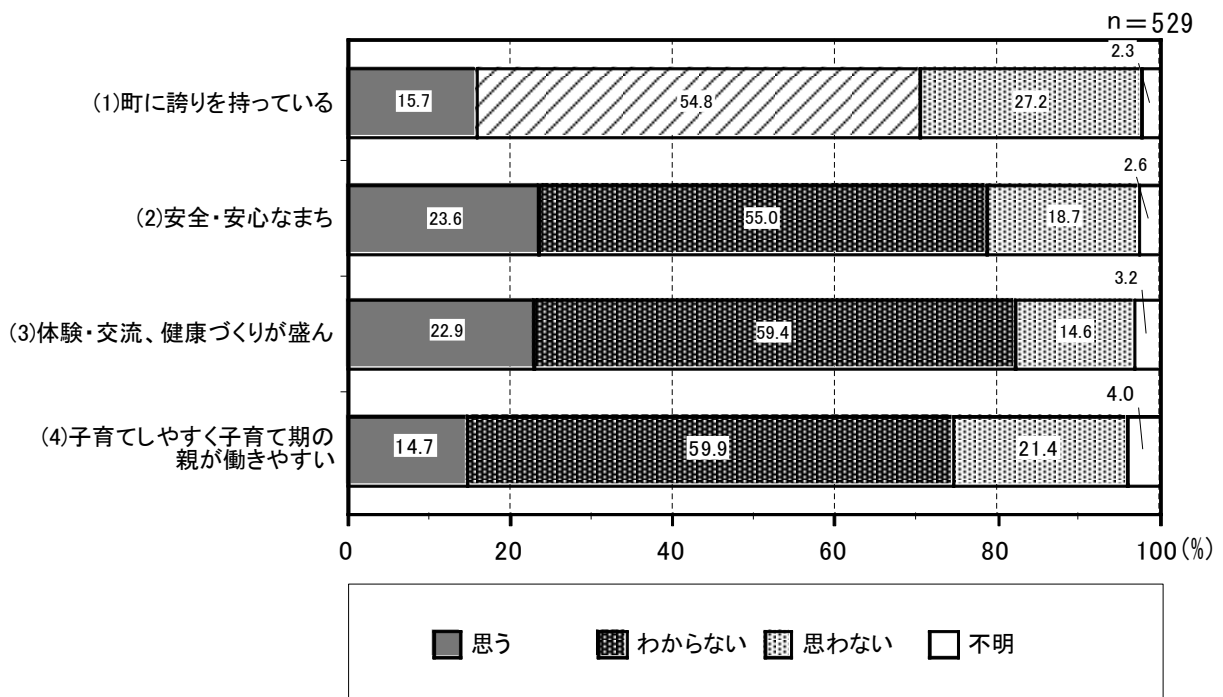
3. 地域の状況と自身の行動について

問 13 地域が次のような状況になっていると感じるか。普段の生活でどのような行動や取り組みを行っているか(項目別に○は1つ)

(1) まちの目指す方向の達成状況

- 全ての項目で「わからない」が最も高くなっていますが、「思う」が「思わない」より高いのは、「(2)地域における支え合いがあり安全・安心なまちになった」、「(3)子どもの学びや体験・交流、健康づくりが盛んになった」です。
- 「思わない」が「思う」より高いのは、「(1)町民が川辺町に誇りを持ち、町の良さを情報発信できるようになった」、「(4)子育てしやすく子育て期の親が働きやすくなった」です。

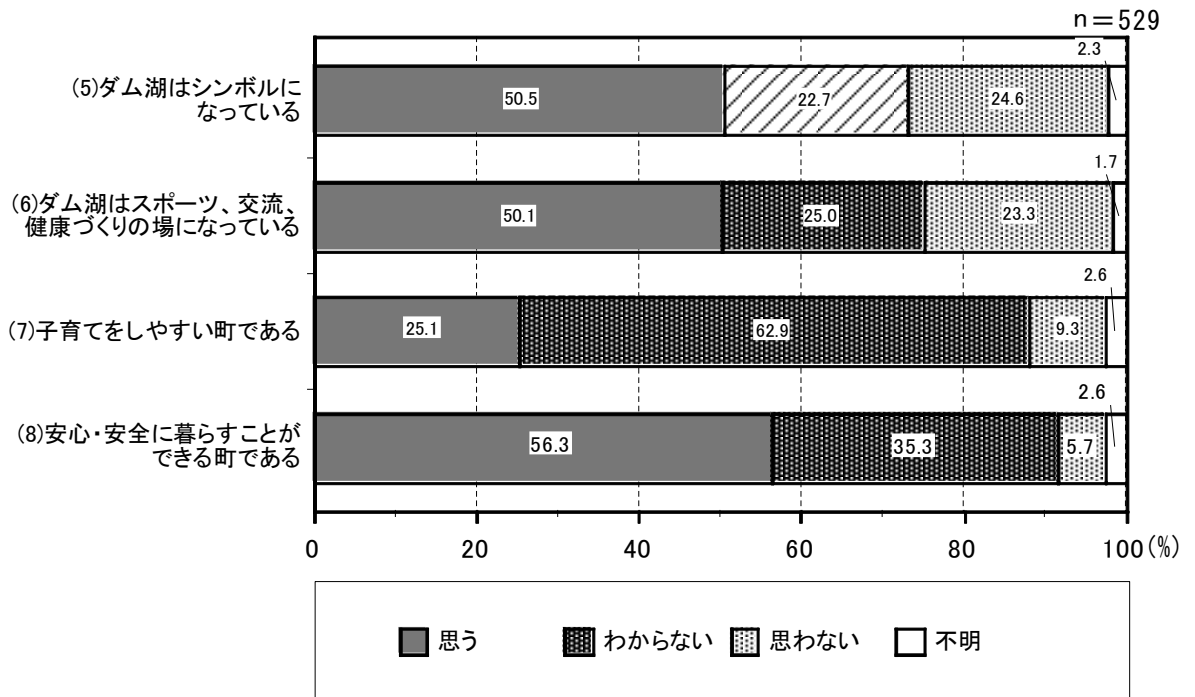
図表4-7 まちの目指す方向の達成状況について



(2) 地域の状況について

- 全ての項目で「思う」が「思わない」より高くなっています。「(5)ダム湖は川辺町のシンボルになっている」、「(6)ダム湖はスポーツ、交流、健康づくりの場になっている」、「(8)安心・安全に暮らすことができる町である」は、「思う」が50%を超えています。
- 「(7)子育てをしやすい町である」が「わからない」が62.9%と高く、「思う」は25.1%にとどまっています。

図表4-8 地域の状況について



(3) あなたご自身の行動について

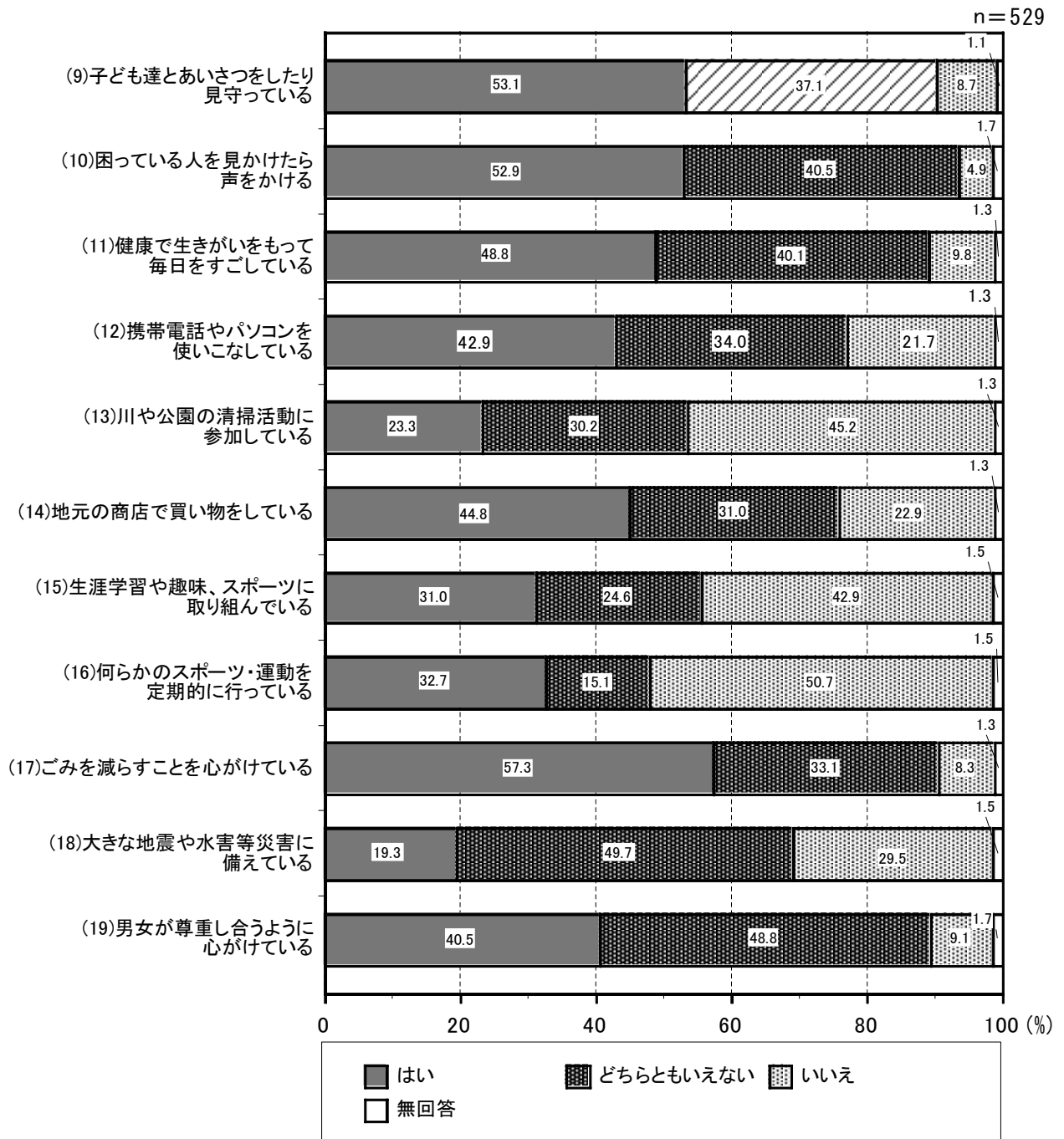
○行動している「はい」が50%を超えているのは、次の3項目です。

- ・「(17)ごみを減らすことを心がけている」 (57.3%)
- ・「(9)子ども達とあいさつをしたり見守っている」 (53.1%)
- ・「(10)困っている人を見かけたら声をかける」 (52.9%)

○一方、行動していない「いいえ」が高いのは、次の3項目で、清掃、スポーツ、生涯学習が挙げられています。

- ・「(16)何らかのスポーツ・運動を定期的に行っている」 (50.7%)
- ・「(13)川や公園の清掃活動に参加している」 (45.2%)
- ・「(15)生涯学習や趣味、スポーツに取り組んでいる」 (42.9%)

図表4-9 あなたご自身の行動について



第5章 地域づくりへの参加について

1. 隣近所とのつきあい程度

問14 隣近所とどのようなつきあいをしているか(○は1つ)

(1) 全体

- 「道で会えば挨拶をする」が48.2%と最も多く、次いで「立ち話をする」が28.4%です。これらに「プライベートでつきあいがある」(13.6%)、「自治会で会う程度」(5.5%)を加えると、95%以上が隣近所とコミュニケーションを持っています。

(2) 性別・年齢別・地区別

①性別

- 女性で「道で会えば挨拶をする」が51.2%で、男性よりも高くなっています。

②年齢別

- 50歳代以上で「立ち話をする」が3分の1程度見られ、他の年齢層よりも高くなっています。
- 概ね若い年齢層ほど「道で会えば挨拶をする」の割合が高くなっています。

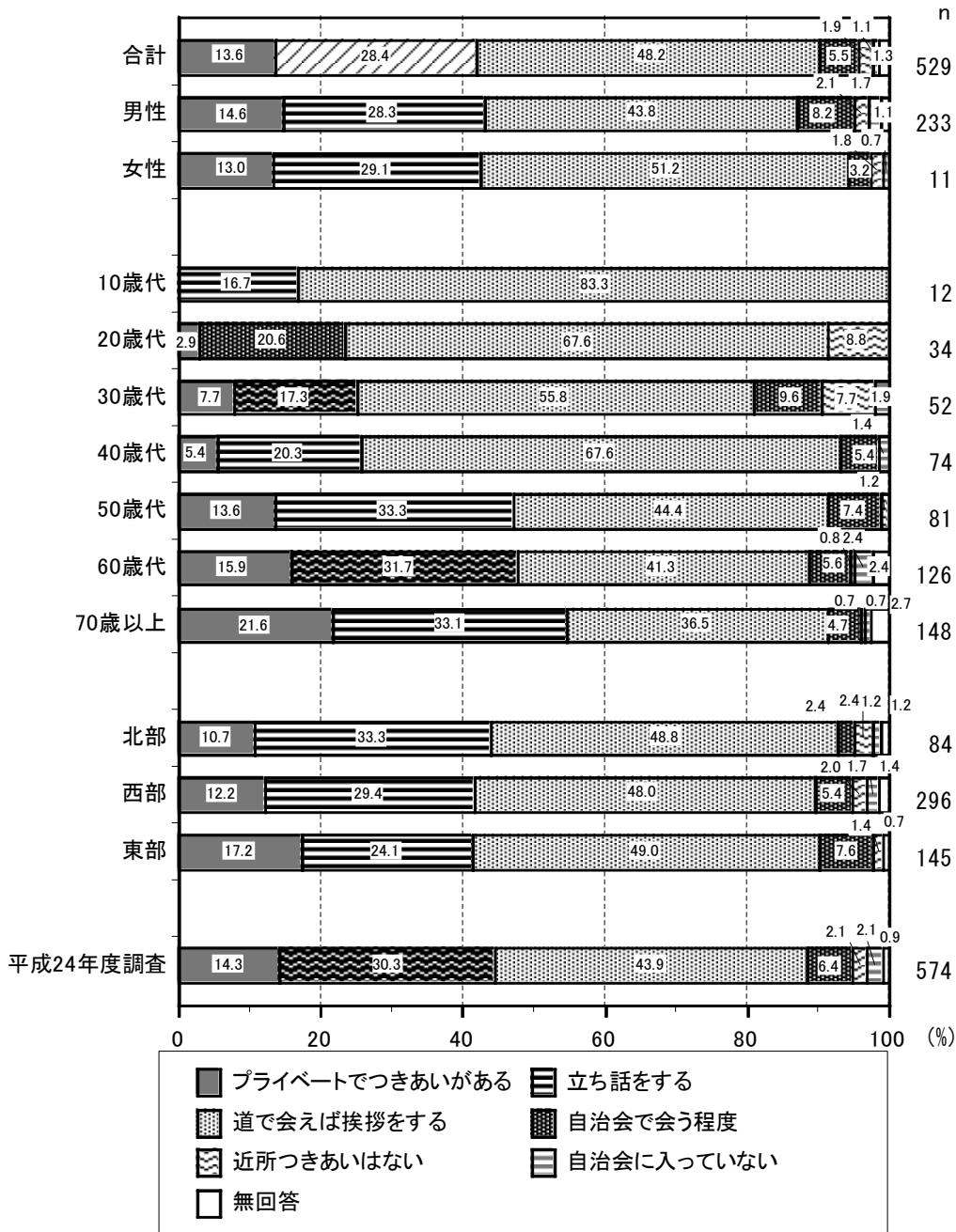
③地区別

- 西部で「プライベートでつきあいがある」が17.2%と他地区よりも高くなっていますが、地区による大きな差はありません。

(3) 前回の調査結果との比較

- 今回の調査では「道で会えば挨拶をする」が4ポイント高くなり、「プライベートでつきあいがある」や「立ち話をする」などが若干低くなっています。

図表5-1 隣近所とのつきあい(性別・年齢別・地区別・前回)



2. 地域活動の参加程度

問 15 自治会や地域の活動にどの程度参加しているか(○は1つ)

(1) 全体

- 「積極的に参加している」(43.3%)と「内容によって参加している」(44.2%)が同じ程度であり、合わせて88%が『参加している』状況です。
- 「あまり参加していない」(6.8%)と「まったく参加していない」(4.9%)を合わせて、『参加していない』が12%です。

(2) 性別・年齢別・地区別

①性別

- 性別では、参加、参加していないに大きな差はありませんが、女性で「内容によって参加している」(47.0%)がやや高くなっています。

②年齢別

- 40歳代以上で『参加している』が概ね90%を超えて、高くなっています。
- 20歳代と30歳代は『参加していない』が30%前後見られますが、「積極的に参加している」もそれに近い割合となっています。

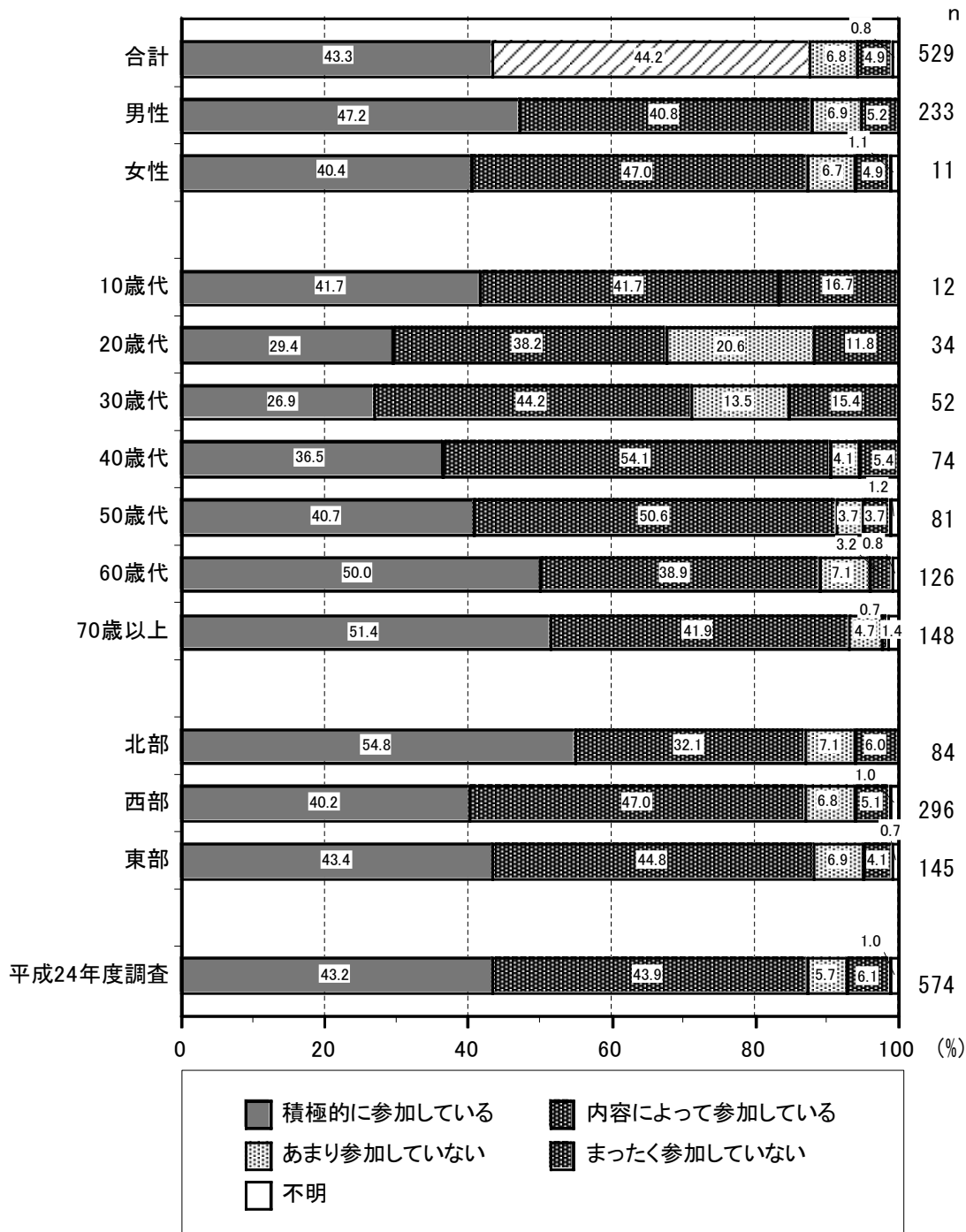
③地区別

- 『参加している』は地区によって大きな差はありませんが、北部では「積極的に参加している」が54.8%と、他地区より10ポイント以上高くなっています。

(3) 前回の調査結果との比較

- 平成24年度調査結果と比較すると、ほぼ同様の状況です。

図表5-2 地域活動の参加程度(性別・年齢別・地区別・前回)



3. 地域活動参加の有無

問 16 参加したことがある自治会や地域活動(該当するもの全てに○)

(1) 全体

○活動によって、回答割合が分れており、環境美化活動への参加が特に盛んで、町民運動会、子ども会がそれに次いでいます。

- ・「資源回収や清掃活動など環境美化活動」 (73.9%)
- ・「町民運動会などへの参加」 (48.0%)
- ・「子ども会や子どもの健全育成のための活動」 (32.5%)
- ・「福寿会や女性の会などの活動」 (24.6%)
- ・「地域の安全を支える防犯・防災活動」 (24.4%)
- ・「山や川など自然環境を保全する活動」 (21.6%)

(2) 性別・年齢別・地区別

①性別

○男性で「町民運動会などへの参加」 (51.9%) と「地域の安全を支える防犯・防災活動」 (33.0%)、「山や川など自然環境を保全する活動」 (30.9%) が、女性よりも高くなっています。

②年齢別

○40 歳代と 50 歳代で「資源回収や清掃活動など環境美化活動」や「子ども会や子どもの健全育成のための活動」が、他の年齢層よりも高くなっています。さらに同年齢層と 30 歳代以下で「町民運動会などへの参加」が、他の年齢層よりも高く、町民運動会は、若い年齢層も参加しています。

○70 歳以上で、「福寿会や女性の会などの活動」は半数強となっています。

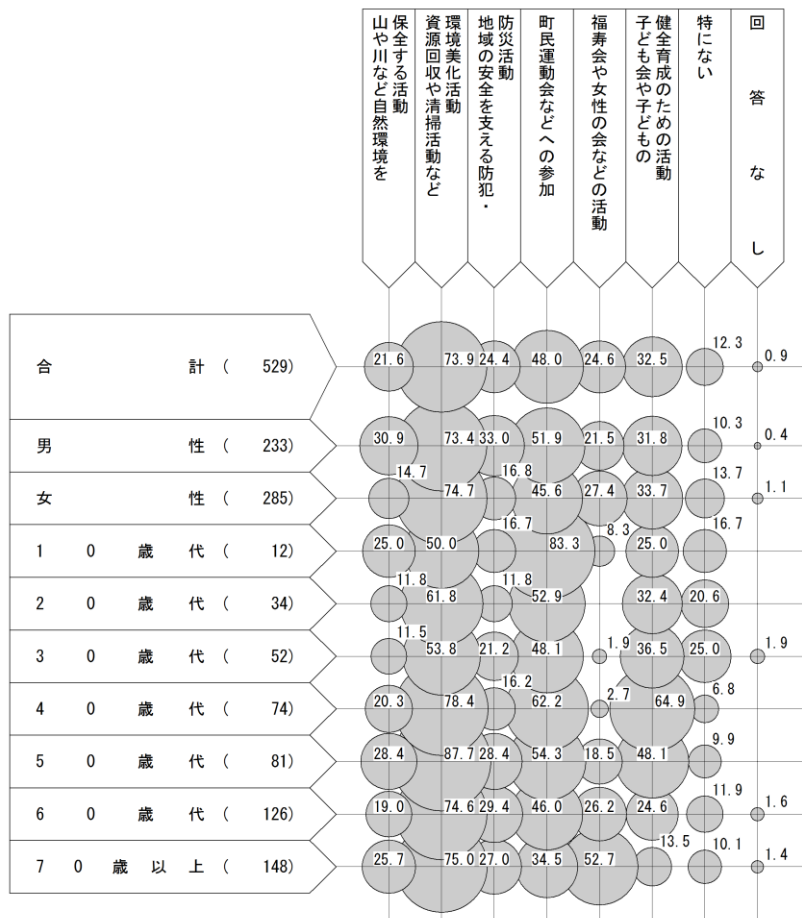
③地区別

○東部で「資源回収や清掃活動など環境美化活動」 (81.4%) や「地域の安全を支える防犯・防災活動」 (27.6%)、西部で「町民運動会などへの参加」 (53.4%) が、他の地区よりも高くなっています。

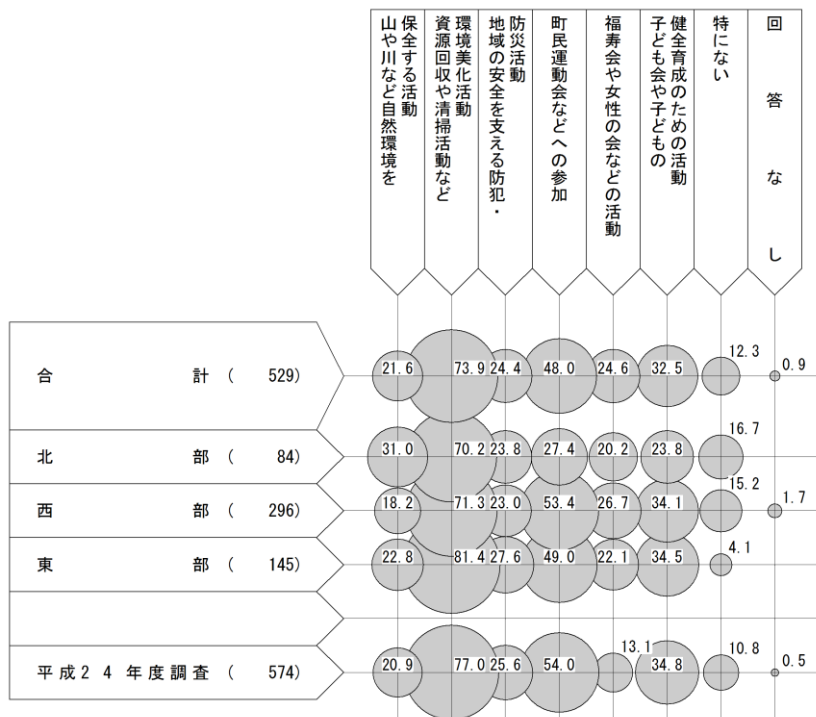
(3) 前回の調査結果との比較

○平成 24 年度調査結果と比較すると、「資源回収や清掃活動など環境美化活動」と「町民運動会などへの参加」がやや低くなってきました。

図表5-3 地域活動参加の有無(性別・年齢別)



図表5-4 地域活動参加の有無(地区別・前回)



4. 強化すべき地域の活動

問 17 地域が助け合い良い地域をつくる力を高めるためにはどのような活動を強化すべきか(1つに○)

(1) 全体

- 「身近な隣近所の見守りなどの日常的な活動」が 31.6%で最も多く、次いで「自治会を中心とする活動」が 25.1%となっており、隣近所や地域が重視されています。
- 「自分の能力や興味を活かすことができるボランティア」は 12.5%、「小学校区のつながりを活かした活動」が 7.6%にとどまっています。

(2) 性別・年齢別・地区別

①性別

- 女性で「身近な隣近所の見守りなどの日常的な活動」(36.5%)、男性で「自治会を中心とする活動」(31.3%)が高くなっています。

②年齢別

- 30 歳代と 50 歳代で「身近な隣近所の見守りなどの日常的な活動」(36%以上)、60 歳代以上で「自治会を中心とする活動」(29%以上)が高くなっています。
- 20 歳代から 40 歳代で「小学校区のつながりを活かした活動」(概ね 15%以上)が他の年齢層よりも高くなっており、小学校区単位の活動がなじみやすくなりつつあると考えられます。

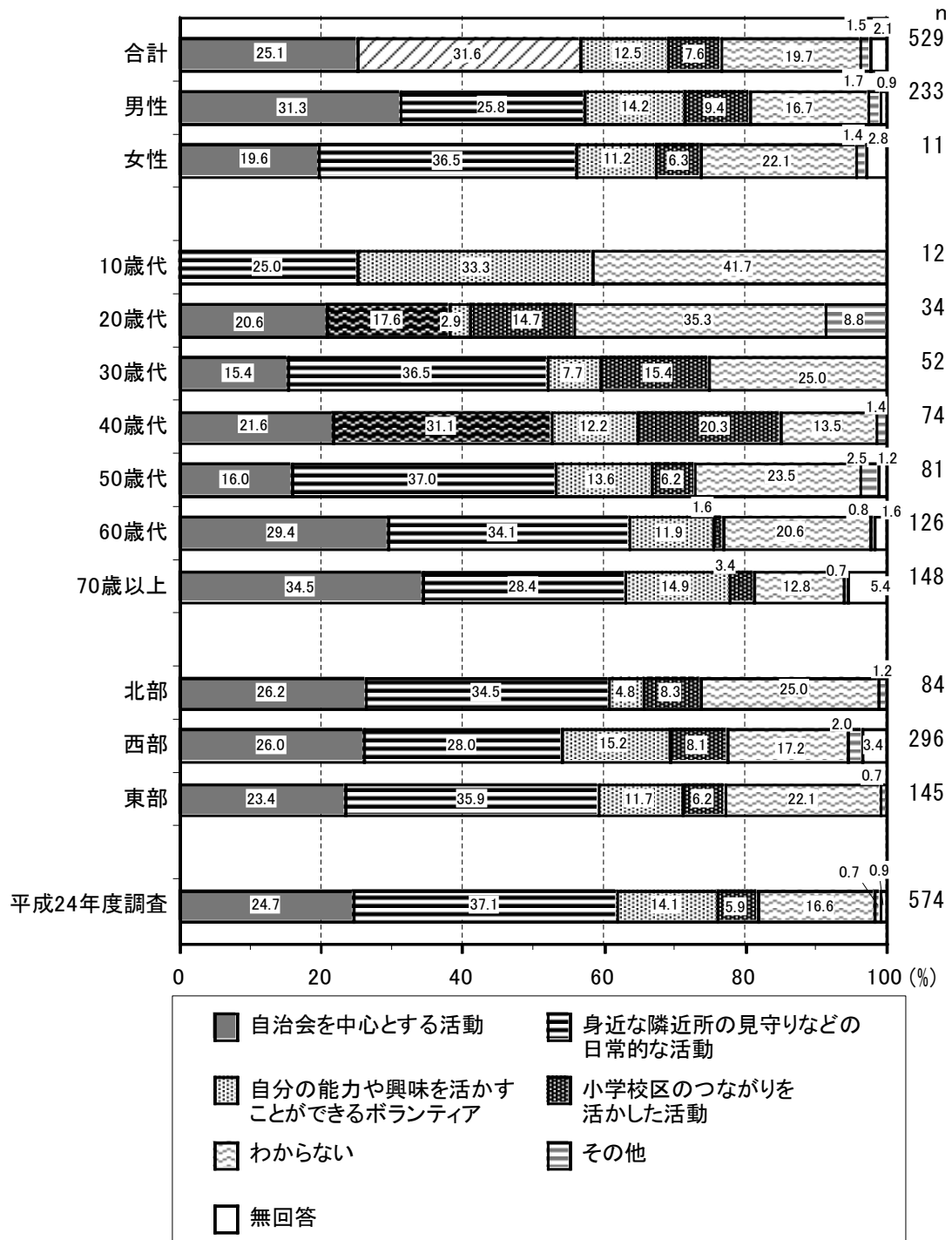
③地区別

- 東部で「身近な隣近所の見守りなどの日常的な活動」(35.9%)が、他の地区よりも高くなっています。

(3) 前回の調査結果との比較

- 平成 24 年度は「身近な隣近所の見守りなどの日常的な活動」が 37.1%でしたが、今回は 5 ポイント以上低くなりました。

図表5-5 強化すべき地域の活動(性別・年齢別・地区別・前回)



5. まちづくりを進める方法

問 18 まちづくりを進める方法(○は1つ)

(1) 全体

- 「住民が主体となって取り組み、行政はあくまでも側面から支援する」が 5.7%、「住民と行政が話し合い、役割分担をしながら協働で取り組む」が 39.3%で、合わせて『住民主体』が 45%です。
- 「行政が主体となって取り組み、住民は理解し、協力する」が 12.3%、「行政が住民の要望を把握しながら、行政が主体となって取り組む」が 30.1%で、合わせて『行政主体』が約 42%であり、『住民主体』がやや多くなっています。

(2) 性別・年齢別・地区別

①性別

- 男性では『住民主体』が 50%と高くなっています。

②年齢別

- 20歳代と70歳以上で『住民主体』が『行政主体』よりも高く、40歳代から60歳代では『行政主体』がやや高くなっています。

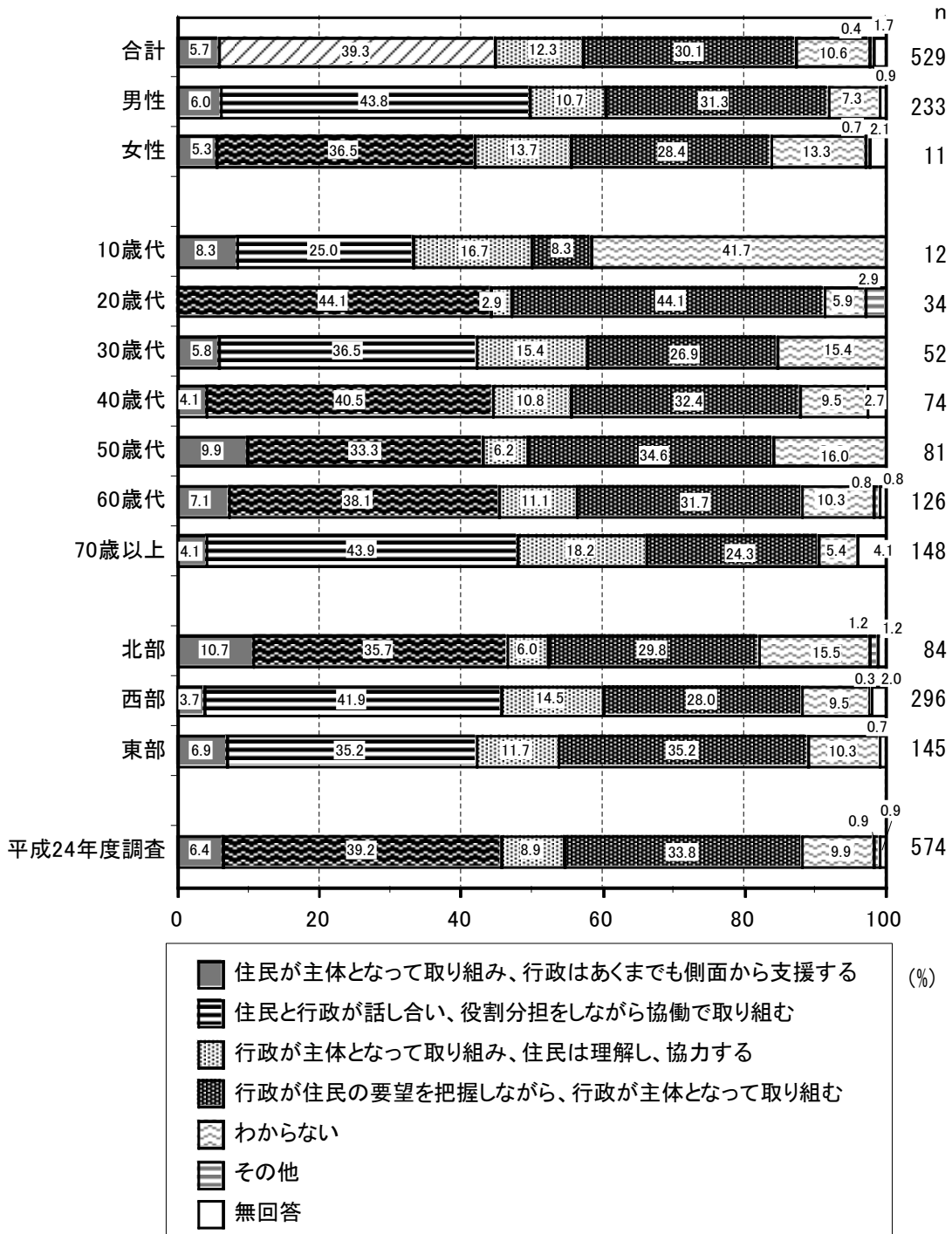
③地区別

- 北部と西部では『住民主体』、東部では『行政主体』が高くなっています。

(3) 前回の調査結果との比較

- 前回の調査結果とは、ほとんど差がありません。

図表5-6 まちづくりを進める方法(性別・年齢別・地区別・前回)



6. 目指すべきまちづくりのイメージ

問 19 住民と行政が力を合わせてどのような町を目指すべきか(○は3つまで)

◆全体

- 5～10年度に目指すべき町のイメージは、高齢者が暮らしやすいことが求められるとともに、若者の定住が求められています。
- ・「高齢者や誰もが暮らしやすい町」(43.3%)
 - ・「買い物や通院などが便利な町」(35.3%)
 - ・「若い人が住み続けることができる町」(35.2%)
 - ・「みんなが健康でいきいきした町」(23.3%)
 - ・「人々が住み続け活気がある町」(22.1%)
 - ・「子どもが元気に学び育つ町」(20.0%)
 - ・「子育てがしやすい町」(19.8%)

(2) 性別・年齢別・地区別

①性別

○性別による大きな差はありませんが、男性で「若い人が住み続けることができる町」(38.2%)、女性で「高齢者や誰もが暮らしやすい町」(47.0%)が高くなっています。

②年齢別

○20歳代から40歳代では、「子育てがしやすい町」、「子どもが元気に学び育つ町」など、60歳代以上では「高齢者や誰もが暮らしやすい町」、「買い物や通院などが便利な町」など、年齢層を反映したニーズの割合が高くなっています。

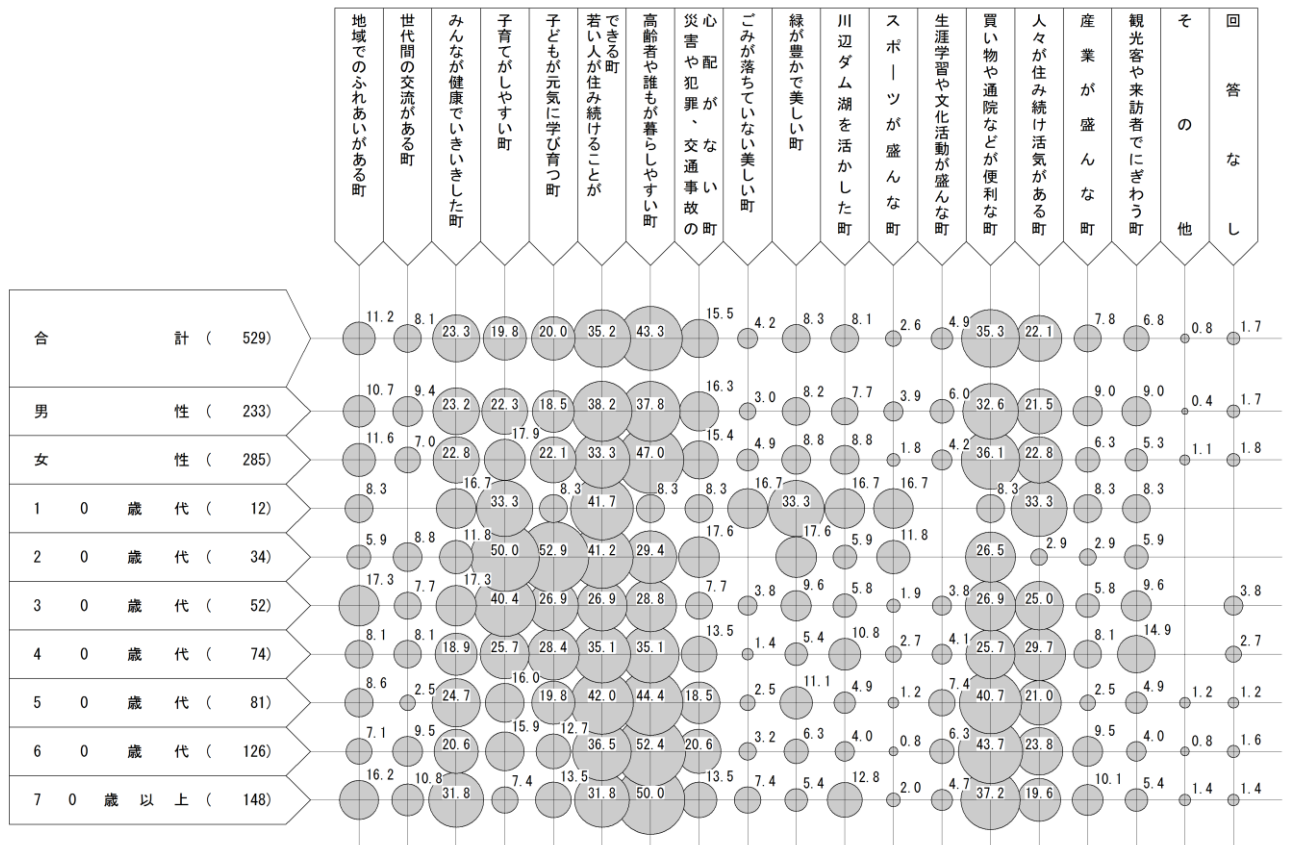
③地区別

○北部で「産業が盛んな町」、「観光客や来訪者でにぎわう町」、東部で「みんなが健康でいきいきした町」、「緑が豊かで美しい町」が他の地区よりも高いのが特徴です。

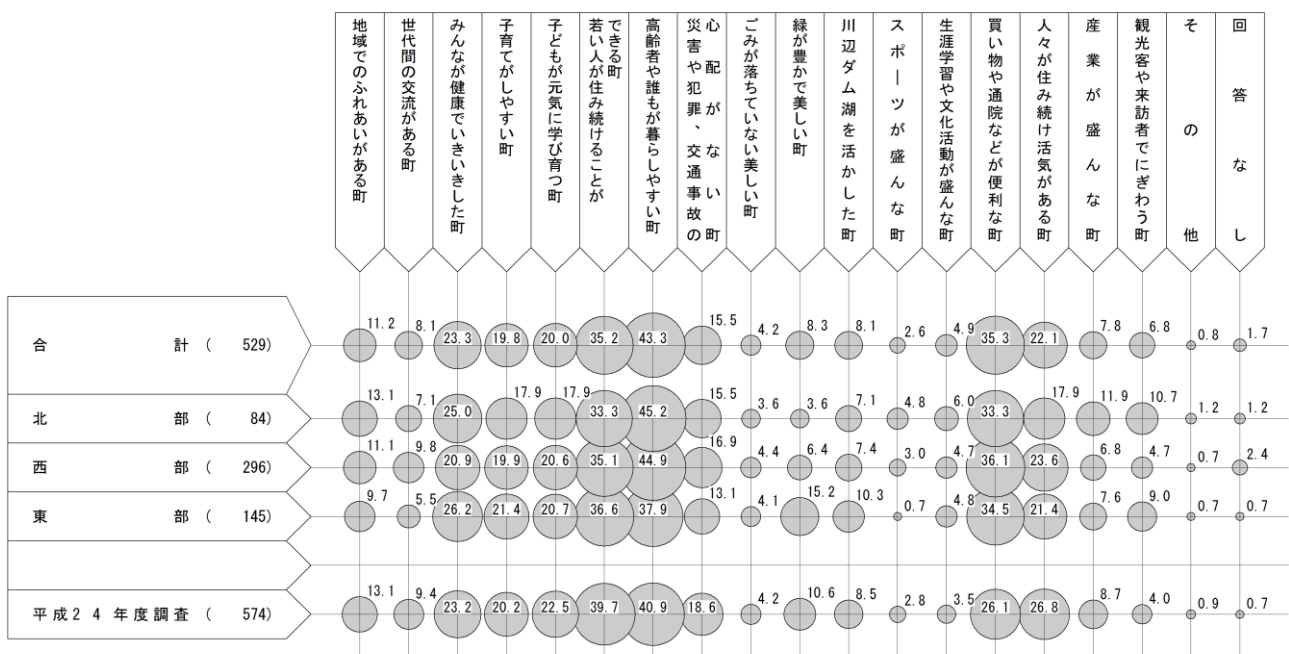
(3) 前回の調査結果との比較

○今回の調査では「買い物や通院などが便利な町」が、平成24年度よりも10ポイント近く高くなり、回答者のうち高齢者の割合が高くなったことを反映していると考えられます。

図表5-7 まちづくりの進め方(性別・年齢別)



図表5-8 まちづくりの進め方(地区別・前回)



第6章 自由記入意見

○自由筆記意見については、161 人から総合計画の項目で分類すると、214 件寄せられました。

○意見数は、産業、行財政運営、生活環境、福祉の分野が多くなっています。

図表 6-1 自由記入意見の意見数

分 類	件数	分 類	件数
1 美しく安らぎのあるまちづくり	10	4 快適に暮らすことができるまちづくり	40
1 環境共生の推進	2	1 居住環境	7
2 循環型社会の形成	2	2 道路	8
3 防災・災害対策	6	3 公共交通	18
4 消防・救急	0	4 公園・緑地	5
5 防犯・交通安全	0	5 治水	0
6 消費生活・住民相談	0	6 上水道	2
19 その他	0	7 下水道	0
2 誰もが安心して暮らせるまちづくり	35	19 その他	0
1 健康づくり	7	5 新たな活力をおこすまちづくり	54
2 地域福祉の推進	1	1 農林業振興	3
3 子育て支援	7	2 商工業・サービス業振興	25
4 高齢者福祉	14	3 勤労者	0
5 障がい者福祉	2	4 観光・交流	24
6 医療	1	19 その他	2
7 社会保障	0	6 共に考え行動するまちづくり	43
19 その他	3	1 協働の推進	2
3 みんなで学び合うまちづくり	27	2 地域コミュニティ	3
1 学校教育	10	3 プロモーションと広報広聴	0
2 青少年の育成	0	4 人権・男女共同参画・多文化共生	0
3 生涯学習・文化財保護	3	5 行政運営	12
4 スポーツ	10	6 財政運営	1
19 その他	4	7 定住自立圏・広域行政	3
		19 その他	22
		7 アンケートについて	4
		8 その他	1
		計	214

図表 6-2 自由記入の主な意見

1 美しく安らぎのあるまちづくり	10
1 環境共生の推進	2
<ul style="list-style-type: none"> ○緑がこのようにすぐ削られていけば暑くもなる。家が建てられれば空家がどんどん増える。建てるなら緑に戻す。 ○里山環境整備に積極的に取り組んでいただきたい。 	
2 循環型社会の形成	2
<ul style="list-style-type: none"> ○田畑にごみを捨てられるので困ります。また、畑を掘ると猫の糞をしている。道には犬の糞で見るのも嫌になります。 ○自宅でごみを燃やされている方が何人かいる。安全のためにも燃やさないよう徹底して欲しいです。 	
3 防災・災害対策	6
<ul style="list-style-type: none"> ○防災訓練が今年からなくなったのは残念です。これからの南海トラフに備えて、やはり地域のつながりをつくっておく必要があるのに、町主催の集まりでは全員参加にならないと思う。 ○人々が安心安全に暮らせる町づくり。ライフラインや防災拠点の整備等防災面の強化。 ○避難場所の見直し、山際、川のそばは危険が多い。 ○大きな災害が起きていますが、川辺町で避難勧告、支持の連絡方法を見直してください。広報スピーカーが聞こえません。 ○各家庭に防災ヘルメットを配布しては。 	
2 誰もが安心して暮らせるまちづくり	35
1 健康づくり	7
<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者が増加していく中での町民運動会開催に反対。昔から行っているだけなら辞めて、高齢者が日常の体力維持向上につながる行事に変えて欲しい。 ○健康で長生きできるように住民と行政が手を取り合う。 ○60～70歳の元気な高齢者の方々にも支える側となっていただく必要があります。何らかのアプローチをもって新たな活躍の場を創出すべきと考えます。 ○歳を重ねた方にタブレットと万歩計を体操しながら順位を出して体を動かすきっかけを作る。 	
2 地域福祉の推進	1
<ul style="list-style-type: none"> ○自治会単位での見守り（1人暮らしの高齢者、子ども） 	
3 子育て支援	7
<ul style="list-style-type: none"> ○空き家が多くあるので、小さい範囲で誰でも集まって話せる場所にできればいいと思います。 ○入籍の際、記念撮影ができるパネルを置く。出産時のお祝い品（買い物券など）新生児の父の子どもの向き合い方の講座を開く。 ○子どもの見守りは確認できる場所で見守る（学校までついていく必要なし）。 ○仕事をしながら子育てしたくても台風ときは学童が休み。保育を延長したり、お盆や年末の保育でお願いしにくい雰囲気がある。 	
4 高齢者福祉	14
<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の方が多くなり、1人暮らしの方もみえます。1番頼りになるのは、両隣の方です。 ○町民のなかに高齢者の割合が多くならないように若い人が働きやすい職場とか向上等を誘致して活躍できるようにして欲しい。 ○高齢者だけで住むには交通の便が悪い。（買い物、病院等） ○高齢者とひとくくりにして扱うことがそもそもおかしい。70代、80代、90代と年代が違えば趣味思考が違うため、現存の高齢者向け施設等は利用したがない人もいる。高齢者が若い人の足かせとならぬよう行政による町づくりを期待します。 	

<p>○高齢者が家に閉じこもらないよう、元気に暮らすことができるように近所での声かけ、体操、サロンではなかなかできない人がいるので、近所での声かけが必要かも。</p> <p>○歳をとって車を運転できなくなったりした時、買い物や病院に行くのができるのかと不安になることがあります。タクシーを使えばいいのですが、もちろん町のバスも使いますが、タクシーの割引があるといいなと思います。</p> <p>○川辺には放課後デイサービスの施設がないので、あると助かる。</p>	
5 障がい者福祉	2
<p>○体の不自由な人への配慮をもう少し考えて欲しい。スロープ、手すりの場所など。健常者には分からないことが多くあるのだと思います。</p> <p>○「福祉の町」とも言われるように高齢者ばかりでなく、障がい児・障がい者の受け入れや住みやすい町になることを希望します。</p>	
6 医療	1
○なぜ川辺町だけ医療費を無償化しているのですか？	
19 その他	3
<p>○安心して老後を迎えるよう福祉のサービス、また若い世代の子育てしやすい環境づくりに取り組んで貰いたく思います。</p> <p>○アイデアは思いつかないですが、これからは川辺町に関わらず高齢化社会を迎える高齢者が安心して楽しい町づくりを期待します。</p> <p>○ボートばかりに力を入れないで、子どもから年寄りに目を向けられる様に広い範囲に整備して欲しい。</p>	
3 みんなで学び合うまちづくり	27
1 学校教育	10
<p>○小中学校の環境を整えていくための教育費を充実。</p> <p>○子どもが小学校入学に向けて家を建てようと考えているが、小学校が西に合併するのか、西と東を残して北がなくなるのかどうなるのかが早く知りたい。</p> <p>○小学校の統合（教育環境充実のため、検討課題になっているが早急に。）</p> <p>○将来、小学校の統合をする話があるが、歩道がない児童の登下校の事故が増えそうで心配である。</p> <p>○小学校の人数が少なくなって来て川辺に3校より1校にまとめて、スクールバスを走らせるようにしてはどうか。学年に同級生が少ないより、学校生活上ほどほどの人数がよい。</p> <p>○川辺町に高校があつたらいいのに。</p> <p>○スポーツ少年団でがんばっているスポーツは、中学校でも続けられるために、中学校の部活動に入れて欲しい。</p>	
3 生涯学習・文化財保護	3
<p>○地域活性化のために文化施設の充実を望みます。他市町村と比較すると劣っているように思います。</p> <p>○多くの人を収容できるホールがあるといい。</p>	
4 スポーツ	10
<p>○これだけ自然に囲まれゆたかな町なのに、運動ができる総合グラウンドがないのは残念です。スポーツはお年寄りから子どもまで全ての人々に大切なこと、スポーツの大会が開催できる町であれば、皆が自然に足を向けると思う。</p> <p>○マリンスポーツやテニスコートなど生涯スポーツに向けて、施設の充実。</p> <p>○総合グラウンドを作り、隣にテニスコートをつくりナイターができるようにし、トイレを作り駐車場を300台ほど作ること。</p> <p>○ダム湖周辺の空き地を何かに活用して欲しい。健康を維持できるスポーツジムなどを誘致する。</p> <p>○今でもボートの町「川辺」が浸透していると思いますが、「ボート+川辺ダム湖」をもっと華やかに盛り上げることができればよいと思います。</p> <p>○ボートの町らしい応援場所について考えるべきだと思います。大会が開催される時は広報で放送するなど、大会が有ることを知らない人が多いと思います。</p>	

19 その他	4
<ul style="list-style-type: none"> ○町で毎年募集しているスポーツとか町の女性の会など参加されると川辺町のことや、友達などたくさんできとてもよいと思います。 ○川辺町独自の楽しみや交流ふれあいができる町づくり。老人なども参加でき、町全体でオリンピックを行っているようなイベントを充実させる。 ○日本で世界で活躍する専門家を迎えセミナーを開催する等、学びたい学生等が日本各地から大勢集まる活気のある川辺町を目指したらと思います。 	
4 快適に暮らすことができるまちづくり	40
1 居住環境	7
<ul style="list-style-type: none"> ○農地法（農用地除外、農地法5条）の審査を迅速に行い、住居地域の拡大を図り住宅敷地を希望する人の期待に応える。 ○若い人が住み続けることができるような住環境の整備。 ○私の近所でも1人～2人暮らしの家が多くなりました。空き家も目立って多くなりました。廃業をした工場がいつまでもそのままになっていて、散歩するにもとても怖いです。 ○空家対策、無耕作地対策（地域に補助金）。 ○空き家が増えているため、何とかして特に若い人を川辺に呼び込んで欲しい。 	
2 道路	8
<ul style="list-style-type: none"> ○生活道路や歩道の整備を真剣に考えて欲しい。新山川橋から和田サイクルの信号の間は、対策（舗装工事）を考えて欲しい。 ○石神の神明神社前の道路の整備。高橋踏み切り前の道路の整備（通学路ですが狭い）。 ○QRコードを作り携帯電話のカメラ機能を使い画像を町が受け取り、道などの修繕に向う。 ○生活道路でも工場から出入りする大型トラックが道幅ぎりぎりに通っています。 	
3 公共交通	18
<ul style="list-style-type: none"> ○八百津及び美濃加茂市の自主運行バスが通過します。お互いに上手く連携しあって、高齢者、通学者等の交通の便の確保に役立ててくれたらと思います。 ○毎日あちこちで高齢者の自動車事故の報道があり早めに免許証を返却したほうがいいと思いますが、川辺町の現状を見ると通院や買い物等すぐに困ってしまいます。 ○小中学校で距離が有るところは、今年の夏のような暑さの場合、福祉バスを出すなど対処したらどうかと思います。普段でも福祉バスがガラガラで走っているのをみると、もったいないので、子ども達も使いやすくしてもらえると良いと思います。 ○町のバスを小型にする。大型バスの利用は必要なときにレンタルしてはどうでしょう。 ○高齢者による悲惨な交通事故が多くなった。人の移動がスムーズになれば、高齢者の早期運転免許証返納も期待できる。高山線のダイヤと町の巡回バスも便利に利用できるよう充実させる。 ○現在のような大型バスではなく、小型バス（ワゴン車）にして本数を増やしたり、どこからでも乗り降りできるようにしたらいいと思います。 ○川辺町の中心地域は便利さがあるが、端の地域は何かにつけ不便で車がないとどこにもいけない。 ○現在は福祉バスの利用はないけど、今後高齢者になった時、バスの利用が必要になると思う。だからずっと運行して下さい。 ○車が乗れなくなった時、病院買い物と日常生活に足が無くタクシーの利用となりますが、何か便をはかっていただきたいと思います。 ○福祉バスが町外へ運行されるようになったのも前進です。川辺町内にこだわらず町外とのルートができることを望みます。 ○高齢化に備え町内だけでなく近隣の町（病院・買い物等）への公共交通の便を充実させることが重要だと思います。 	
4 公園・緑地	5
<ul style="list-style-type: none"> ○小さい子ども達がより楽しく遊べる公園をたくさん作ってほしい。 ○スポーツをするグラウンドといえば、学校と山楠だけ。子ども達が気軽に行ける公園も少な 	

い。 ○遊具のある公園が欲しい。小中学校へのクーラー導入。福祉バスの石神地区への停車。	
6 上水道	2
○水道料金が高すぎるので、もう少し安くないかと思ひます。 ○若い方と話していると水道代が高いので自宅でプールもしてやれないとのこと。	
5 新たな活力をおこすまちづくり	54
1 農林業振興	3
○農業にもっと目を向けて欲しい。高齢になり、実際に農業をしている人を見ると、町は少しは対策を考えているのか。 ○土地をもっている老人方も畑の世話は苦勞している。アパート暮らしの若夫婦の中には農作業に憧れを持つ人もいるので、年寄りと若者が共存すれば川辺に定住する人も増える。	
2 商工業・サービス業振興	25
○産業に活気があれば、町は活性化すると思う。工場、会社を町内に多く呼び込む。 ○産業が発展しみなさんが働く場所があり、人が川辺町外に流れていかないようにすることが大切だと思います。 ○若い子育て世代が流入する町にしないといけないと思う。雇用する企業誘致と若い人が住みたいと思えるまちにしないと将来困ると思う。 ○川辺町に飲食店が一軒もないことが大変困るので誘致して欲しいです。 ○空き家を利用して若い人達がお店を出すとか、一定期間貸し店舗として使えるようにするとしたら、少しずつこの川辺にも来てもらえるのではないのでしょうか。 ○長江製陶跡地の活用。産業祭の活性化。他の町の産業祭に比べ、人気が無い。	
4 観光・交流	24
○貴重な人材が町外へ流出している。人口増になっている市町村に習い、新しい政策。例えば、花火・お菓子・IT長者、ラーメン、フリーマーケットの街など。 ○川辺の花火は遠方の小中の子ども達が見学に来られます。安全な場所で素晴らしい花火大会ができるように祈っています。 ○シンボルとなるような大型の観光スポットが1つ欲しい。公園と一体化した道の駅が有ると良い。川を資源にした観光。 ○川を使った安全なスポーツ、バラエティーイベントの充実。夏は花火大会、秋はふれあい祭り以外にも何か大きなイベントがあるといい。 ○ボート王国川辺といっているが、町民の意識は低いのではないか。もっと誰もが乗ってみたいと思えるように。 ○国道沿いに川辺町特産（シイタケ、フルーツ、大福等）を販売する道の駅を作る。 ○川辺町には、立派なボート競技施設を100%活かさないのか。町が先頭になって民宿・民泊の始め方各種申請の仕方等を講習会を開き指導する。 ○アートのイベントがあればうれしい。 ○ボートに偏らない創造スポーツ施設及び県外からの集客が見込めるようなレジャー施設等の建設。 ○ボートにもっと力を入れて欲しい。川辺ダム湖を活かして欲しい。遊歩道を利用していますが、点検してほしい。 ○日本の中で川辺町があると思ひますので、川辺サミットとか、カワベ協定を組んで交流を図るのも面白いと思ひます。 ○飛騨川の遊歩道に桜をならべ、桜の名所にする。道の駅を作り、川辺町のスポットにする。冬のライトアップをして、集客を図る。現状を打破して、元気で活気のある川辺町にする。	
19 その他	2
○仕事があり、川辺町に住みたいと思えるまちづくりをして下さい。	
6 共に考え行動するまちづくり	43
1 協働の推進	2
○色々なボランティア活動を増やし、楽しく分かりやすく紹介し誰でも気軽に参加できるも	

<p>のにならないでしょうか。少人数の負担が大きくなってしまいます。</p> <p>○町民の中にはいろんな資格・能力のある人がいる。あまり表に出していない人もいる。行政で積極的に発掘する場を作り、ボランティア活動を盛り上げてみたらどうか。</p>	
2 地域コミュニティ	3
<p>○町議会も大事ですが、区長自治会を大いに活用する。</p> <p>○各自治区の統合なり分割なり世帯比をならして自治活動をやりやすくする。</p> <p>○各自治会に町長が年1回は状況説明、意見交換をしてもらえると町政に関心が持てるようになると思います。</p>	
5 行政運営	12
<p>○限られた予算枠で優先順位はあると思うが、住民の要望を調査、検討する体制が必要と思う。</p> <p>○ホームページから意見を書き込めるようにしてほしい。</p> <p>○行政依存ではなく町と住民が連携協力しあうことが大切。まずは町長をはじめ町職員がどんな小さな会合にでも出席して住民の声に耳を傾けることが必要だと思います。</p> <p>○町民の方の生活環境や意識が変化する中で「昨年までこうだったから」の考えで進められていることが多い。「町民一人ひとりの心に寄り添う行政」を進めていくことが大切。</p> <p>○色々な世代の意見をもっと聞き、取り組むべき。</p> <p>○議会の様子をCATVで放送する。SNSを活用して意見を求める。</p> <p>○町民からの提言にすぐに対応できるシステム作り。</p>	
6 財政運営	1
<p>○住民税の軽減等、税金が少ないのも若い世代にはありがたいと思う。</p>	
7 定住自立圏・広域行政	3
<p>○美濃加茂だが大きさや人数がいることを考えると、可児市との連携イベントが利用できるとよい。</p> <p>○美濃加茂市との合併はもうないのですか？</p>	
19 その他	22
<p>○川辺町の将来は、川辺町在住者で話し合い決めるのが本来だと思います。委員会や会議の代表メンバーが同じ人で継続することは、多様な意見を取り入れにくいと思います。</p> <p>○町議員を若い年齢までとし、新しいアイデアが出て、そのアイデアが老いた人でつぶされないよう、行動できる行政にする。</p> <p>○若い世代の地域参加がどんどん減っています。若い世代を取り込んでいける企画が必要だと思います。</p> <p>○町外から移住される人は、何か理由があって川辺町に移住してくるので、そういった人の意見を聞いてみてもいいかと思います。</p> <p>○民間と協働して事業を行っていく。例えば、アクトスが営業されてから町民が多くアクトスに通い、町民の健康増進に役立っている。</p> <p>○若い人が住みやすく、町外からも移り住む若い人が増えるよう保険料の減額等。出会いとなるイベントの開催。</p> <p>○気軽に参加できる意見交換会のようなものを多く開催すると良いのではないのでしょうか。</p> <p>○これが川辺町の「誇りです！」といえる、自慢できるものがない。</p> <p>○若い世代が今後も住み続けたいと思えるような町づくりが将来世代のために必要だと思います。</p> <p>○行政は意見を聞き実行すべき。事業主への優遇が多い。ポートは何のメリットも無い。</p> <p>○高齢者が増え、今後川辺町に活気がなくなることが予想されるので、若い世代が住みやすい環境又、産業があると良いと思う。</p> <p>○川辺町が高齢化しないよう若い人が活躍できるようにしていただきたい。</p> <p>○大きな取り組みや政策を1つに絞って、それをアピールしたほうが川辺町全体としての方向性が定まってまちづくりや行政を進めやすいのではないかと感じた。</p> <p>○古い時代がいつまでも幅をきかせているのではなく、若い世代の新しい意見や考え方を汲み取って人が集まる町になると良いです。</p>	

○町の活性化に向けた具体的な施策を危機感を持った町民と共に作り上げる。計画の遂行とその達成度を見える化し、出来ていない部分は即実践する。

7 アンケートについて

4

○アンケートの公表（結果）が必要。

○行政は町民の声を聞き入れた方針を先に示すべきで、このようなアンケートは内容も無く無駄である。

(注) 各分野の代表的な意見やユニークな意見を抽出、要約しています。意見がなかった分野などは省略しています。